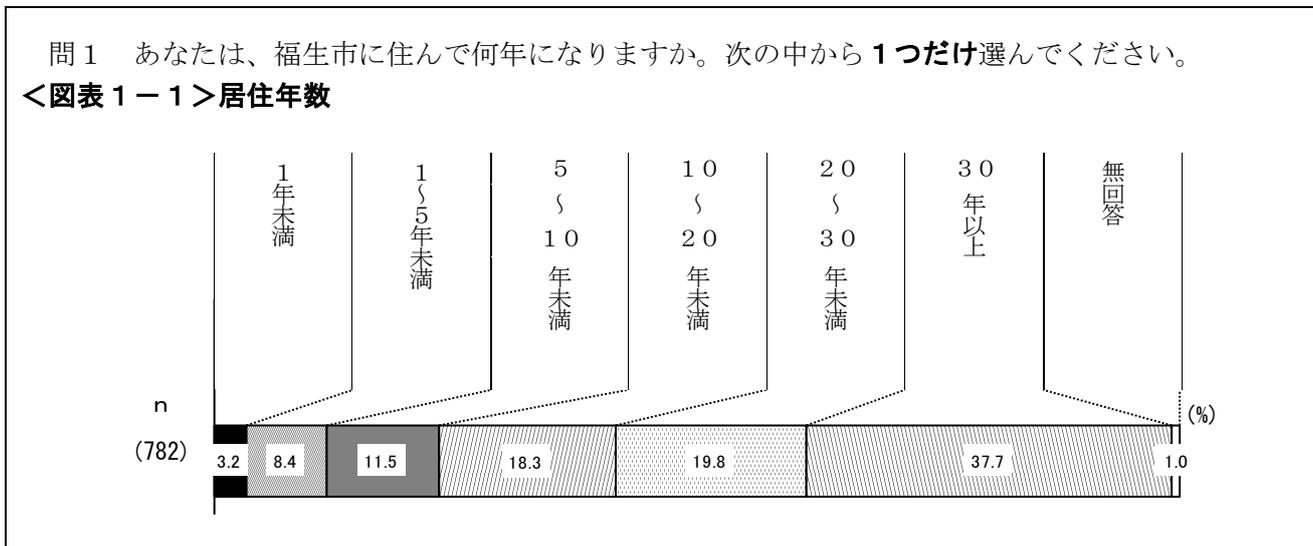


IV 結果の分析

1. 定住意識

(1) 居住年数

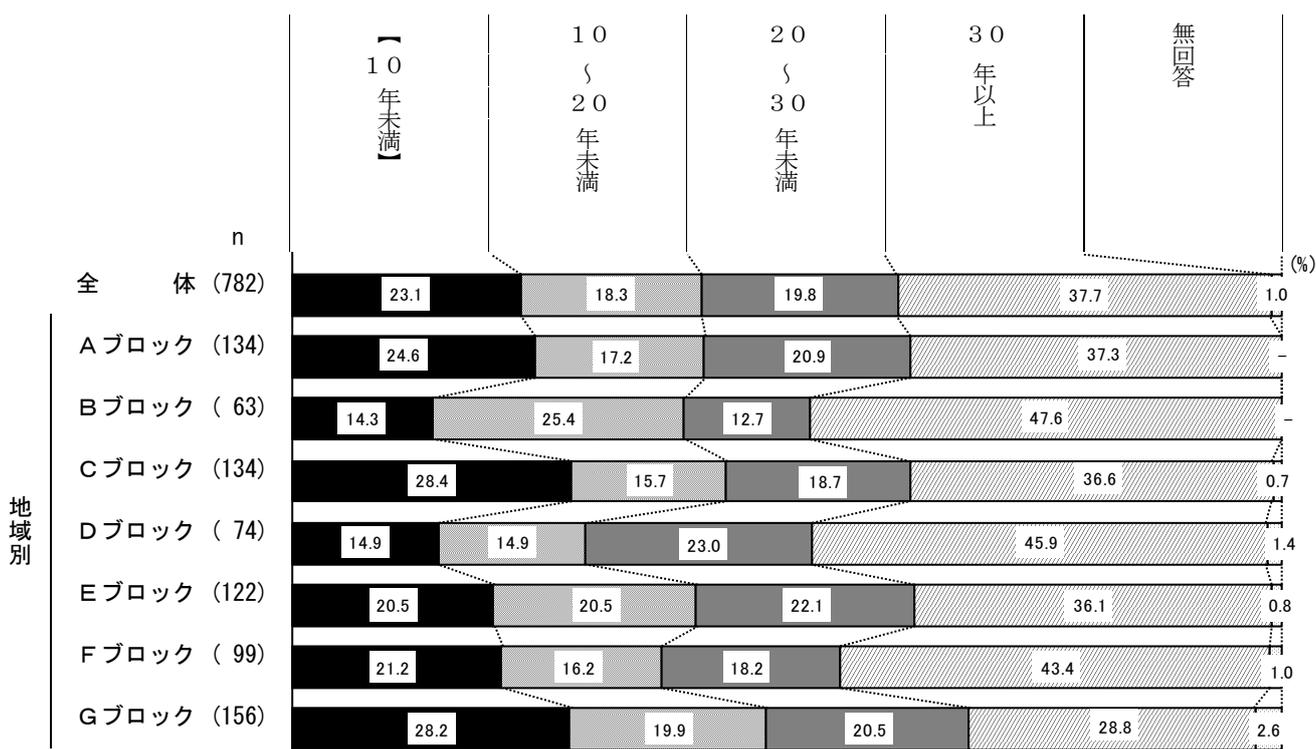
◇「30年以上」が3割台半ばを超える



福生市に住んで何年になるかについては、「30年以上」(37.7%)が最も高く、3割台半ばを超えている。次いで、「20～30年未満」(19.8%)が2割弱となっている。以下、「10～20年未満」(18.3%)、「5～10年未満」(11.5%)、「1～5年未満」(8.4%)、「1年未満」(3.2%)と続く。(図表1-1)

地域別でみると、「30年以上」は、Bブロック(47.6%)で4割台半ばを超えて最も高く、次いでDブロック(45.9%)で4割台半ばとなっている。一方、住み始めて【10年未満】は、Cブロック(28.4%)、Gブロック(28.2%)の順で高く、それぞれ3割近くとなっている。(図表1-2)

<図表1-2>居住年数/地域別

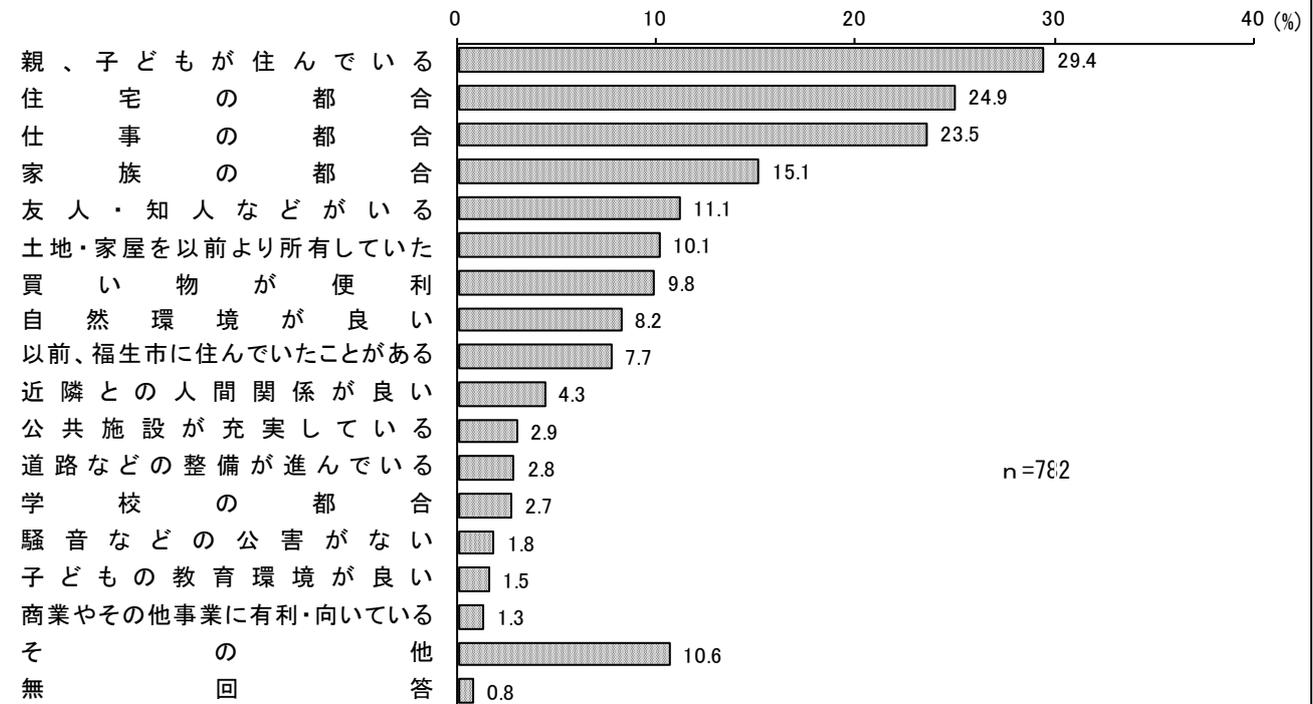


(2) 福生市に住もうと思った理由

◇「親、子どもが住んでいる」が3割弱

問2 あなたが福生市に住もうと思った理由は何ですか。次の中から**あてはまるものを全て**選んでください。

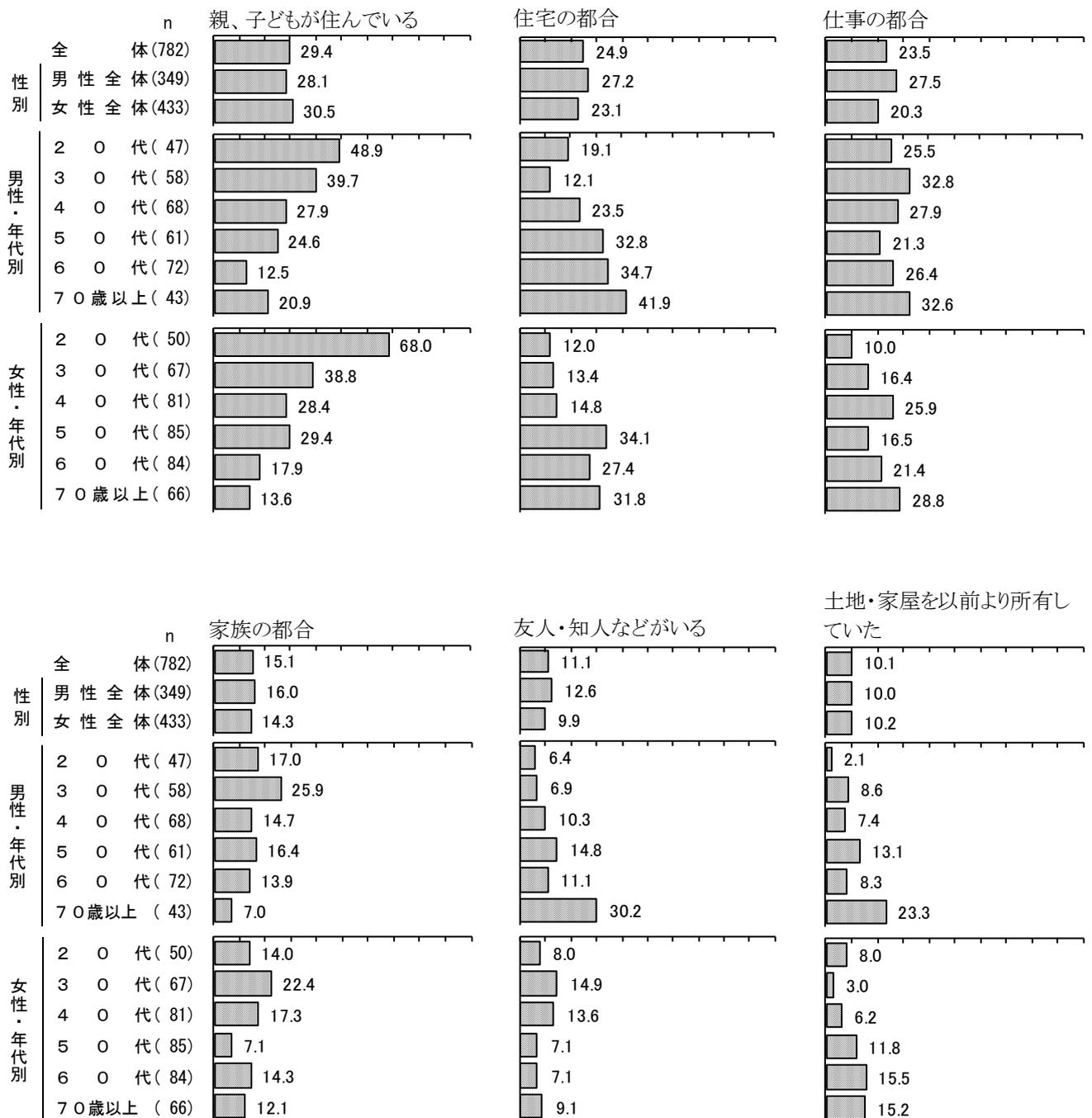
<図表1-3>居住の理由（複数回答）



福生市に住もうと思った理由については、「親、子どもが住んでいる」(29.4%)が最も高く、次いで「住宅の都合」(24.9%)、「仕事の都合」(23.5%)、家族の都合(15.1%)となっている。(図表1-3)

上位6項目を、性別、性・年代別で見ると、「親・子供が住んでいる」は男女ともに20代が最も高く、女性の20代（68.0%）で7割近くとなっている。（図表1-4）

＜図表1-4＞居住の理由／性別、性・年代別（上位6項目）

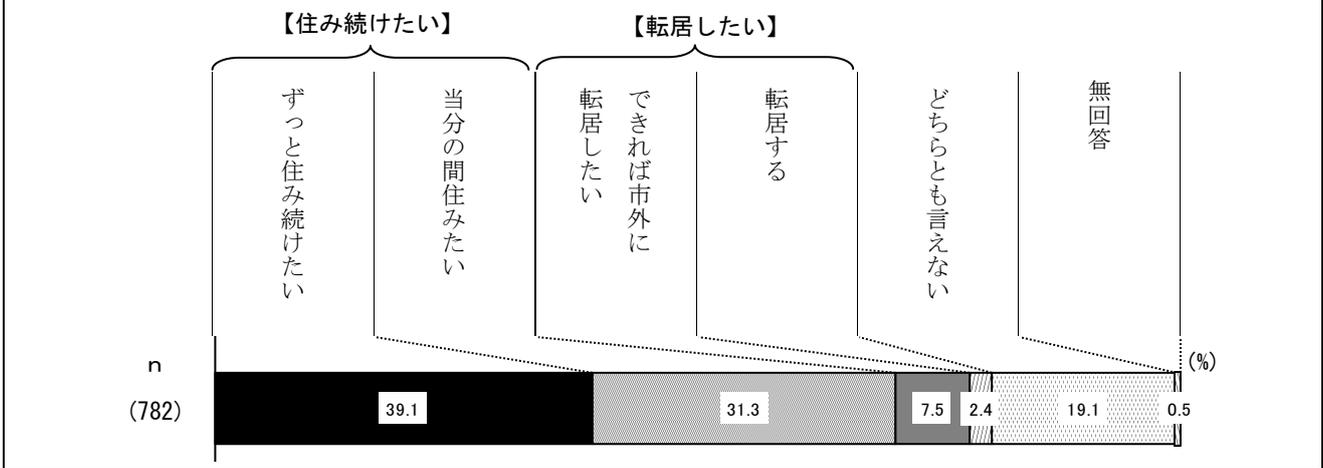


(3) 定住意向

◇「ずっと住み続けたい」と「当分の間住みたい」を合わせた【住み続けたい】が約7割

問3 あなたは、今後も福生市に住み続けたいと思いますか。それとも市外に転居したいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

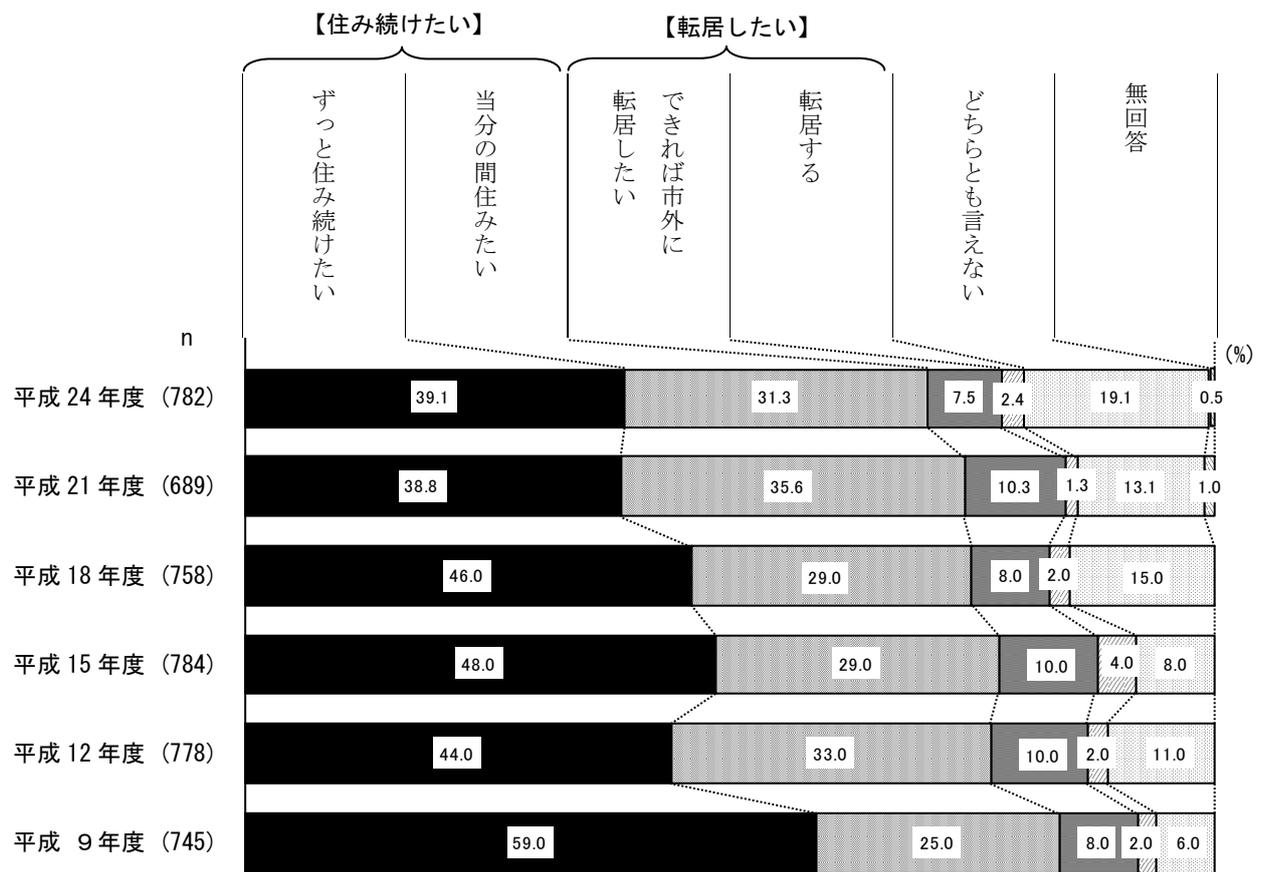
<図表1-5>定住意向



定住意向については、「ずっと住み続けたい」(39.1%)が4割弱と最も高く、これに「当分の間住みたい」(31.3%)を合わせた【住み続けたい】(70.4%)の割合は、約7割を占める。一方、「できれば市外に転居したい」(7.5%)と「転居する」(2.4%)を合わせた【転居したい】(9.9%)は1割弱にとどまる。(図表1-5)

過年度の調査結果の推移をみると、【住み続けたい】の割合が減少し、「どちらとも言えない」が増加する傾向にある。(図表1-6)

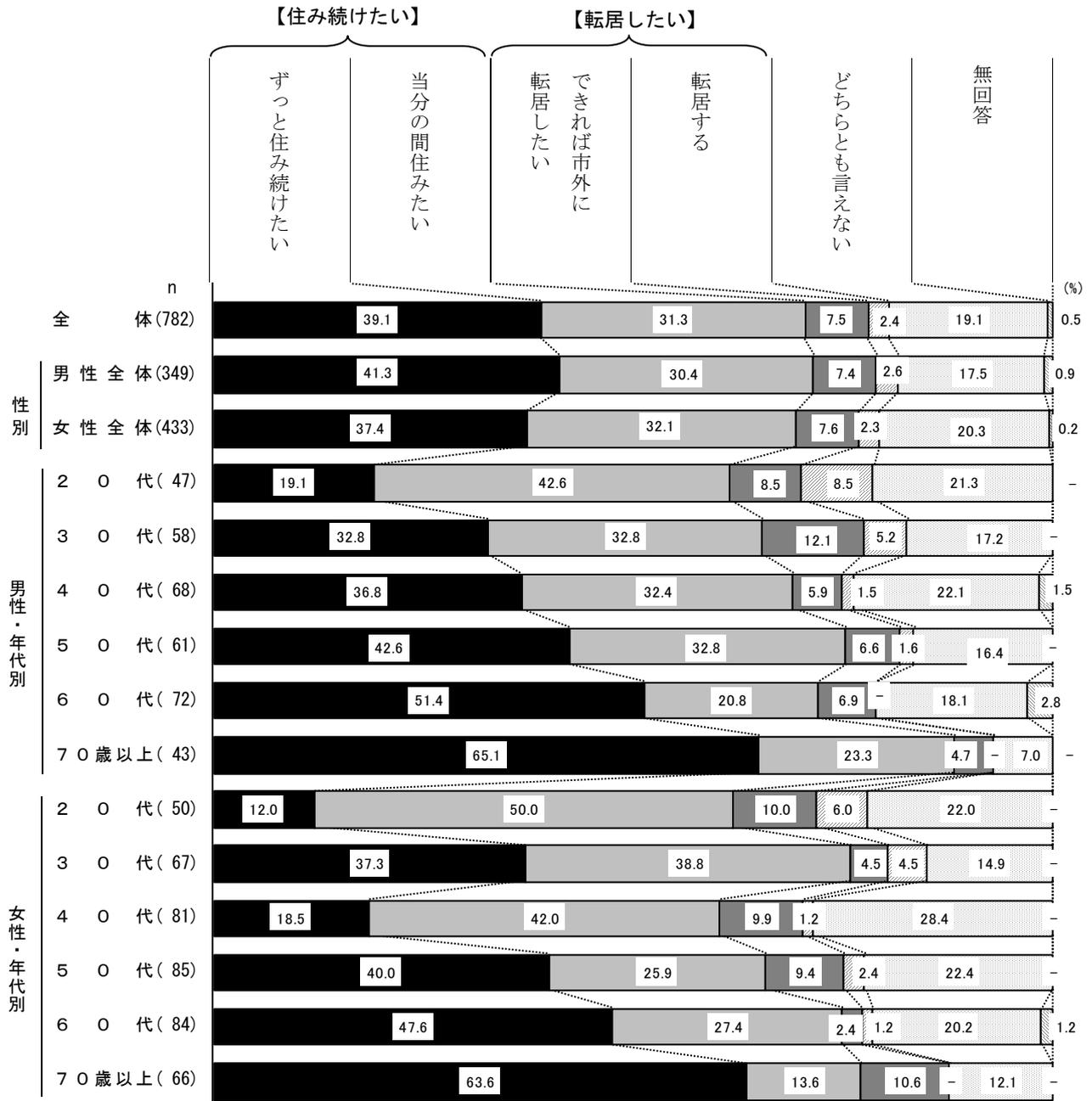
<図表1-6>定住意向/過年度推移



性別でみると、【住み続けたい】は、男性（71.7%）で7割強、女性（69.5%）で7割弱を占め、男性が女性を僅かに上回っている。

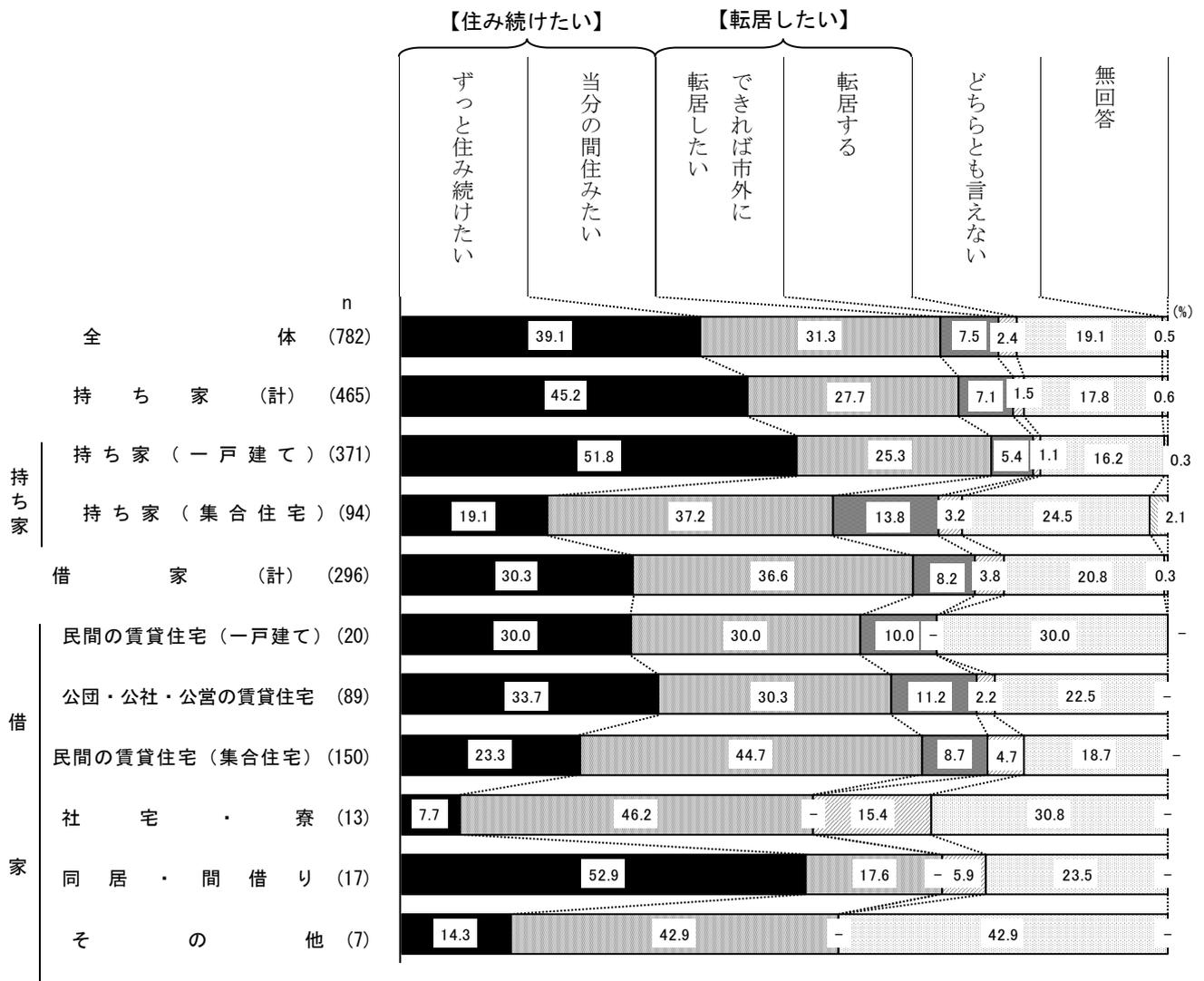
性・年代別でみると、【住み続けたい】は、男性の70歳以上（88.4%）で9割近くと最も高い。一方、【転居したい】は男性の30代（17.3%）、男性の20代（17.0%）、女性の20代（16.0%）の順に高く、男女ともに低い年代で高い傾向がみられる。（図表1-7）

＜図表1-7＞定住意向／性別、性・年代別



住居形態別でみると、【住み続けたい】は持ち家（計）（72.9%）が借家（計）（66.9%）より高くなっている。特に持ち家の一戸建てでは「ずっと住み続けたい」（51.8%）が5割強となっている。（図表1－8）

<図表1－8>定住意向／住居形態別

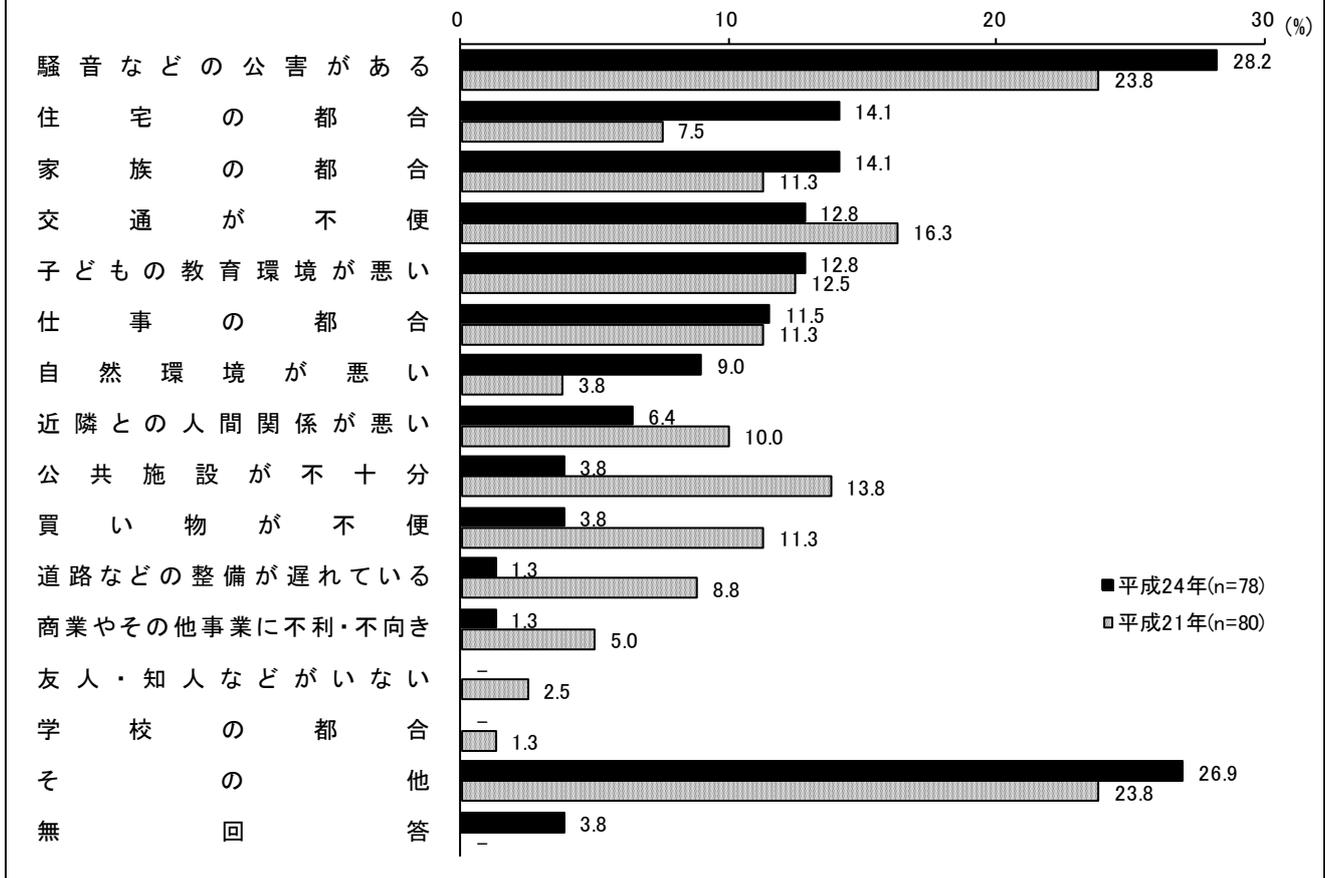


(4) 移転したい理由

◇「騒音などの公害がある」が3割近く

問3-2 問3で「3できれば市外に転居したい」または「4転居する」を選んだ方にお伺いします。
「転居したい」または「転居する」とお思いの理由を次の中から2つまで選んでください。

<図表1-9>移転したい理由(複数回答)



問3で「できれば市外に転居したい」、「転居する」と回答した方にその理由を尋ねたところ、「騒音などの公害がある」(28.2%)が3割近くで最も高くなっている。次いで「住宅の都合」(14.1%)、「家族の都合」(14.1%)が高く、1割台半ば近くとなっている。(図表1-9)

平成21年度の調査結果と比較すると、平成21年度に最も高い「騒音などの公害がある」が平成24年度も最も高く、さらに4.4ポイント増加している。平成21年度に2番目に高かった「交通が不便」は3.5ポイントの減少で平成24年度には4番目になっている。また、「住宅の都合」は6.6ポイント、「自然環境が悪い」は5.2ポイント増加し、一方で、「公共施設が不十分」は10.0ポイント、「買い物が不便」は7.5ポイント、「道路などの整備が遅れている」は7.5ポイントのそれぞれ減少となっている。(図表1-9)

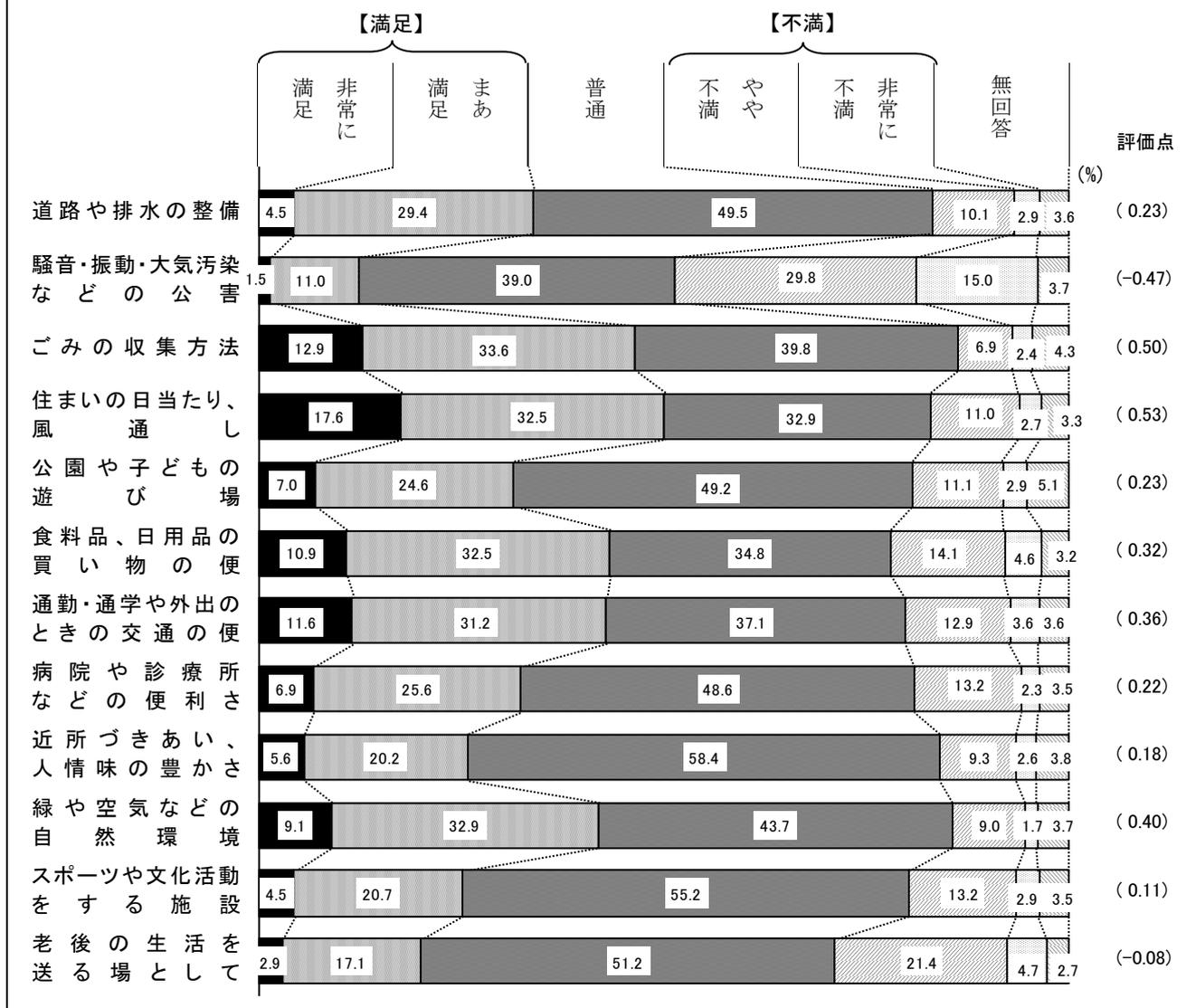
2. 生活環境評価

(1) 地域の生活環境評価

◇「住まいの日当たり、風通し」では【満足】が約5割

問4 あなたは、「地域の住みよさ」について、普段どのように感じていますか。次の(ア)から(シ)までの項目について、それぞれ1つずつ選んで番号に○をつけてください。

<図表2-1>生活環境評価



問4で生活環境に関する12項目の評価を尋ねたところ、「非常に満足」と「まあ満足」を合わせた【満足】は、「住まいの日当たり、風通し」(50.1%)が最も高く、約5割となっている。次いで、「ごみの収集方法」(46.5%)、「食料品、日用品の買い物の便」(43.4%)、「通勤・通学や外出のときの交通の便」(42.8%)「緑や空気などの自然環境」(42.0%)の順に高く、それぞれ4割以上となっている。一方、「やや不満」と「非常に不満」を合わせた【不満】は、「騒音、振動、大気汚染などの公害」(44.8%)で4割台半ば近くを占める。次いで「老後の生活を送る場として」(26.1%)が2割台半ばを超えて高い。(図表2-1)

生活環境の評価を比率でみるのとは別に、その比較をより明確にするために加重平均値による数量化を試みた。これは、下記の計算式にあるように、評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出する方法である。

算出方法

$$\text{評価点} = \frac{\begin{aligned} & \text{「非常に満足」の回答数} \times 2 \text{点} \\ & + \text{「まあ満足」の回答数} \times 1 \text{点} \\ & + \text{「普通」の回答数} \times 0 \text{点} \\ & + \text{「やや不満」の回答数} \times -1 \text{点} \\ & + \text{「非常に不満」の回答数} \times -2 \text{点} \end{aligned}}{\text{(回答者数－無回答数)}}$$

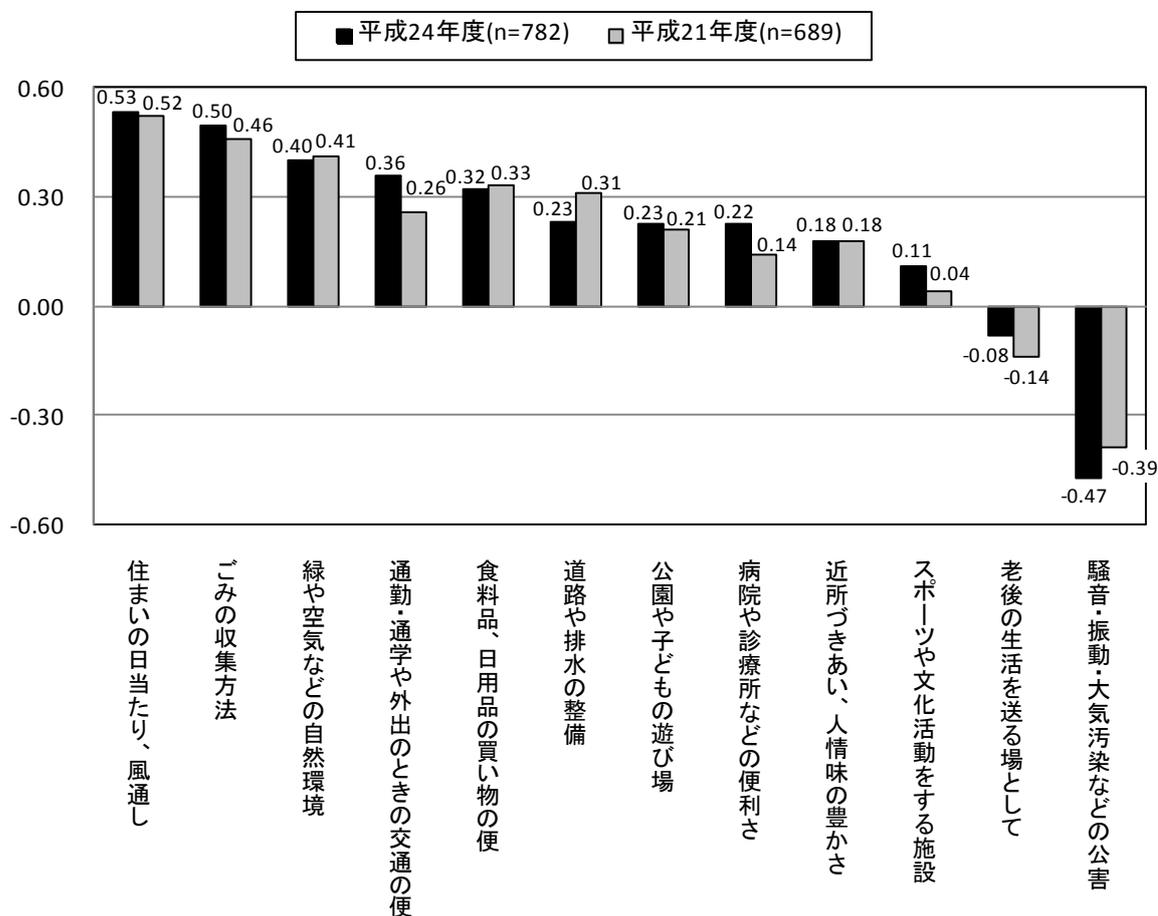
この算出方法では、評価点は+2.00点～-2.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、+2.00点に近いほど評価は高く、逆に-2.00点に近いほど評価は低いことになる。

これによると、最も評価点が高い項目は「住まいの日当たり、風通し」(0.53)となっており、次いで、「ごみの収集方法」(0.50)、「緑や空気などの自然環境」(0.40)、「通勤・通学や外出のときの交通の便」(0.36)となっている。一方、最も評価が低い項目は「騒音・振動・大気汚染などの公害」(-0.47)となり、また、「老後の生活を送る場として」(-0.08)もマイナスの評価点となっている。

平成21年度の調査結果と比較すると、評価の高い1位～3位の順位に変動はなかった。「通勤・通学や外出のときの交通の便」は評価点の増加がプラス0.1と最も大きく、逆に、「道路や排水の整備」、「騒音・振動・大気汚染などの公害」については-0.08の減少となっている。

(図表2-2)

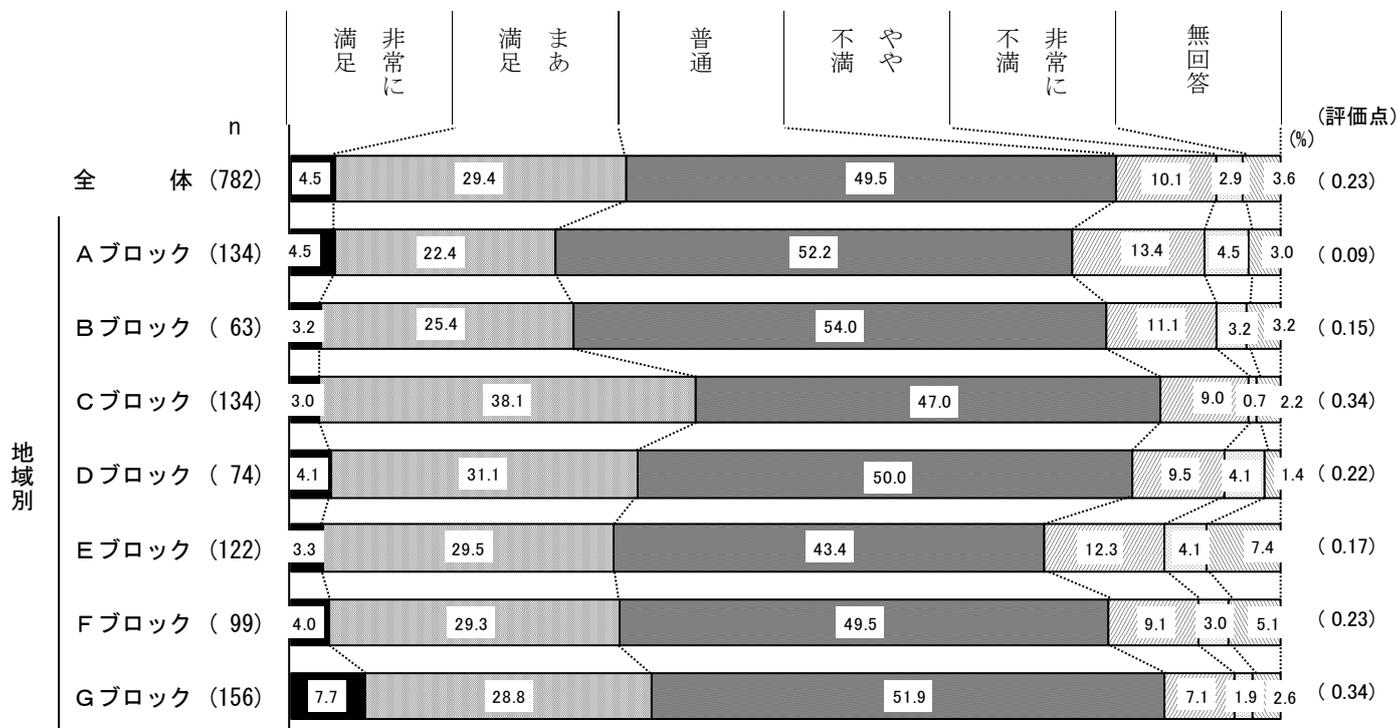
<図表2-2>生活環境評価／前回比較



各項目の調査結果を地域別でみた。

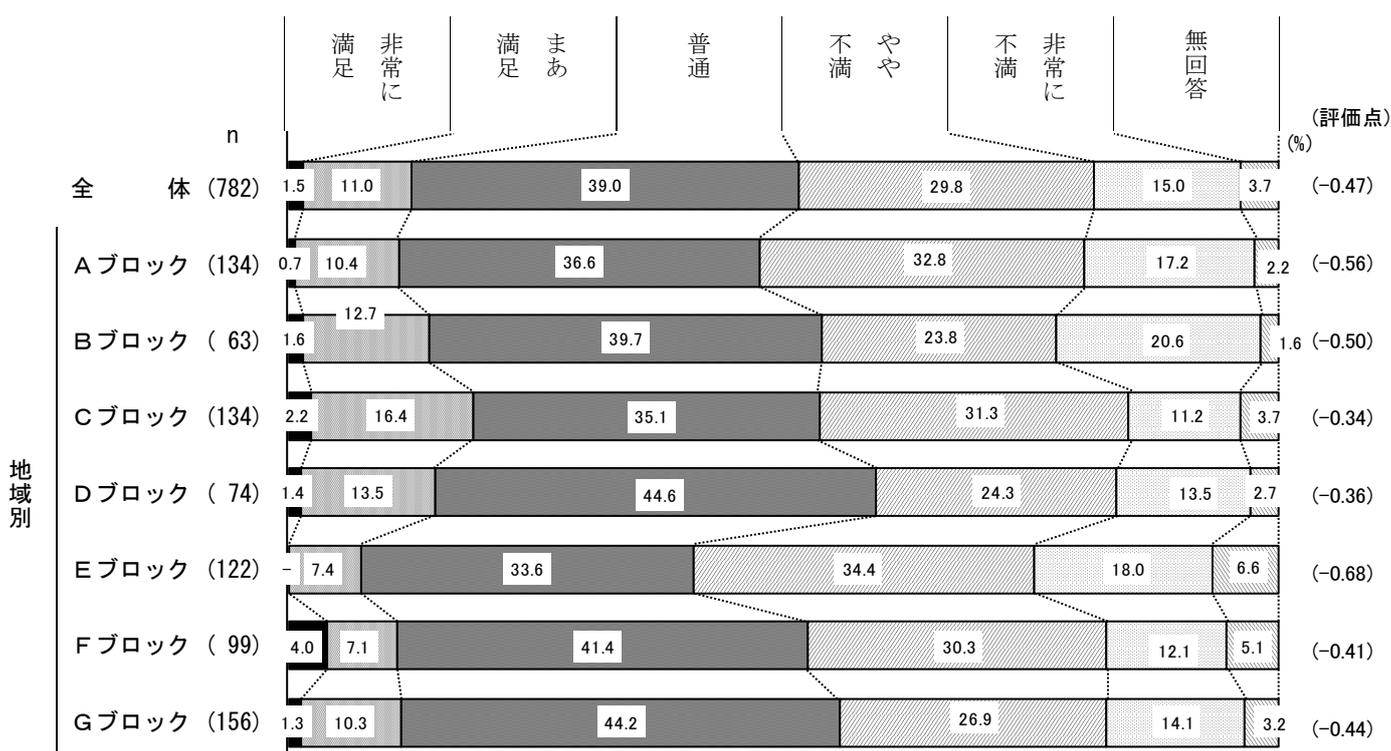
【道路や排水の整備】Cブロック (0.34)、Gブロック (0.34) で最も評価点が高く、次いでFブロック (0.23)、Dブロック (0.22) となっている。一方、Aブロック (0.09) で他のブロックに比べて低い評価点となっている。(図表2-3)

＜図表2-3＞道路や排水の整備／地域別



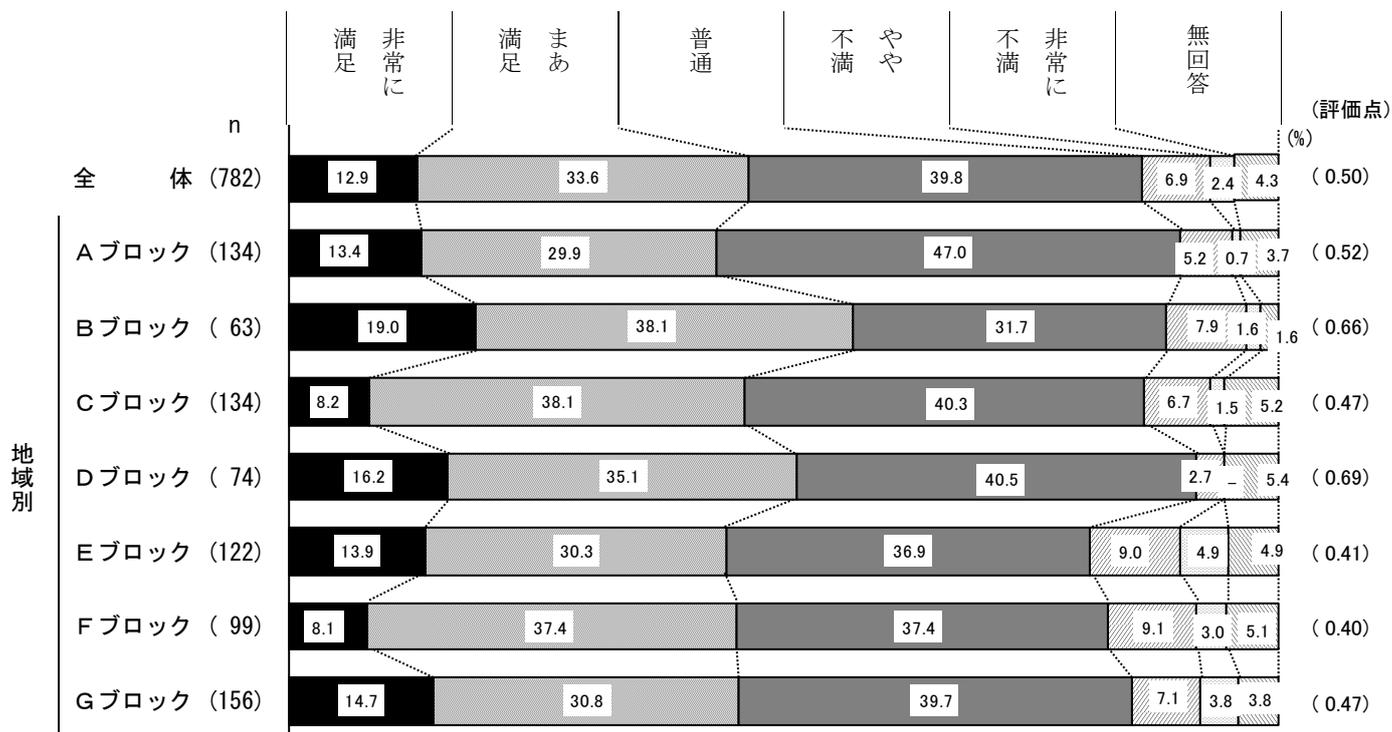
【騒音・振動・大気汚染などの公害】すべてのブロックでマイナスの評価点となっており、特にEブロック (-0.68)、Aブロック (-0.56)、Bブロック (-0.50) で目立って低くなっている。(図表2-4)

＜図表2-4＞騒音・振動・大気汚染などの公害／地域別



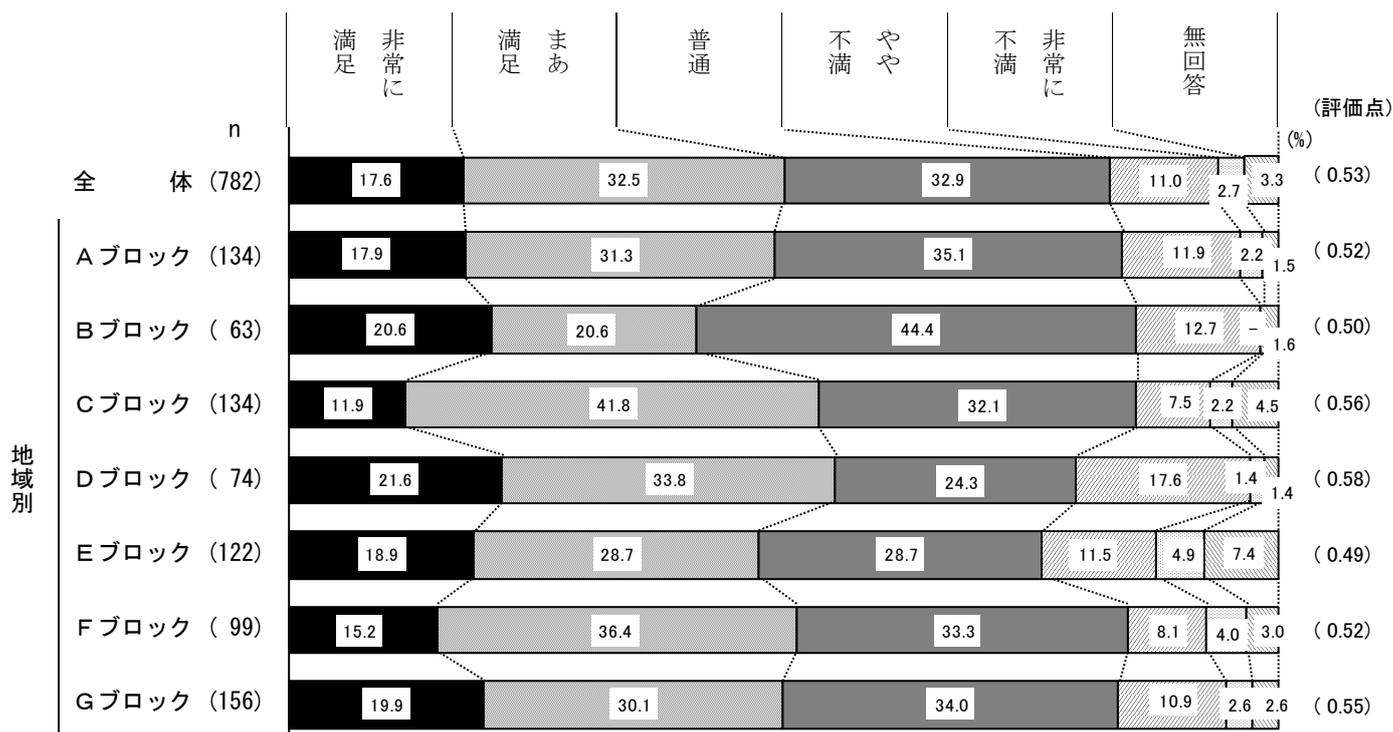
【ごみの収集方法】Dブロック（0.69）で評価点が最も高く、次いでBブロック（0.66）となっている。（図表2-5）

＜図表2-5＞ごみの収集方法／地域別



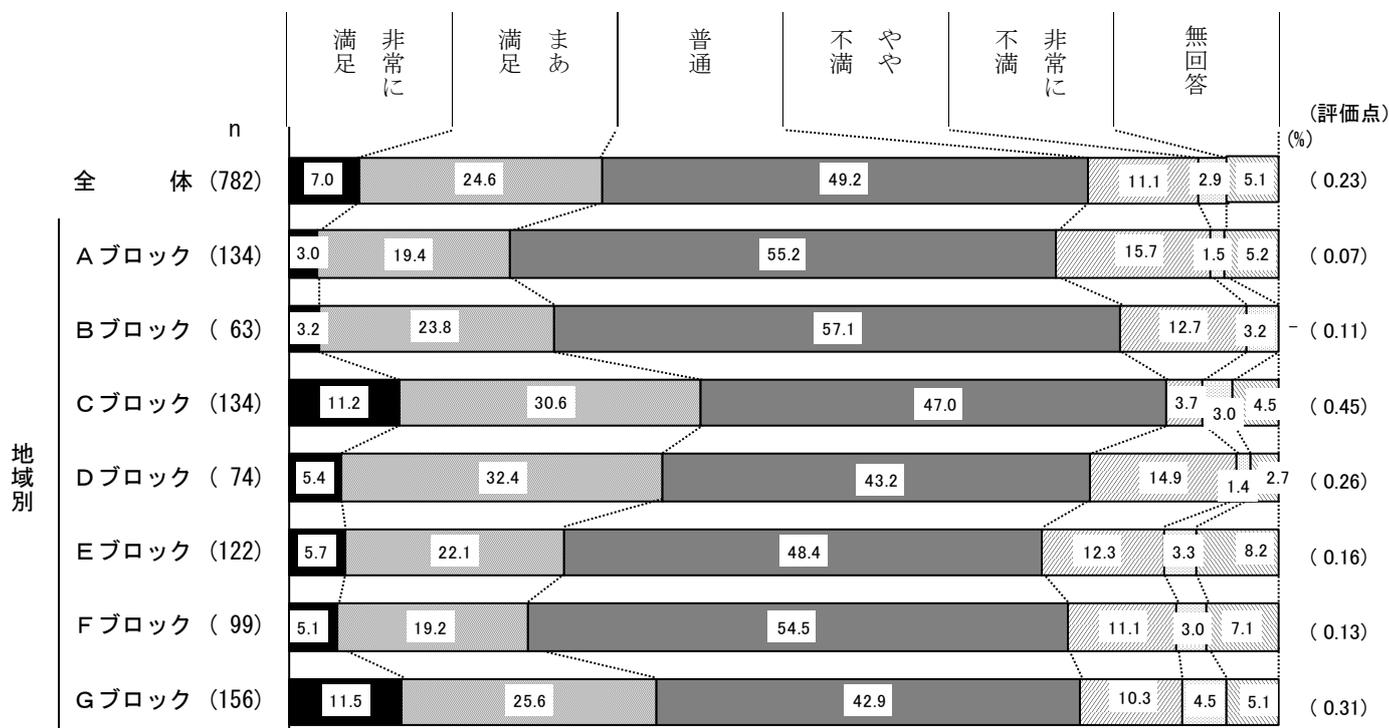
【住まいの日当たり、風通し】Dブロック（0.58）で最も評価点が高く、次いでCブロック（0.56）、Gブロック（0.55）となっている。（図表2-6）

＜図表2-6＞住まいの日当たり、風通し／地域別



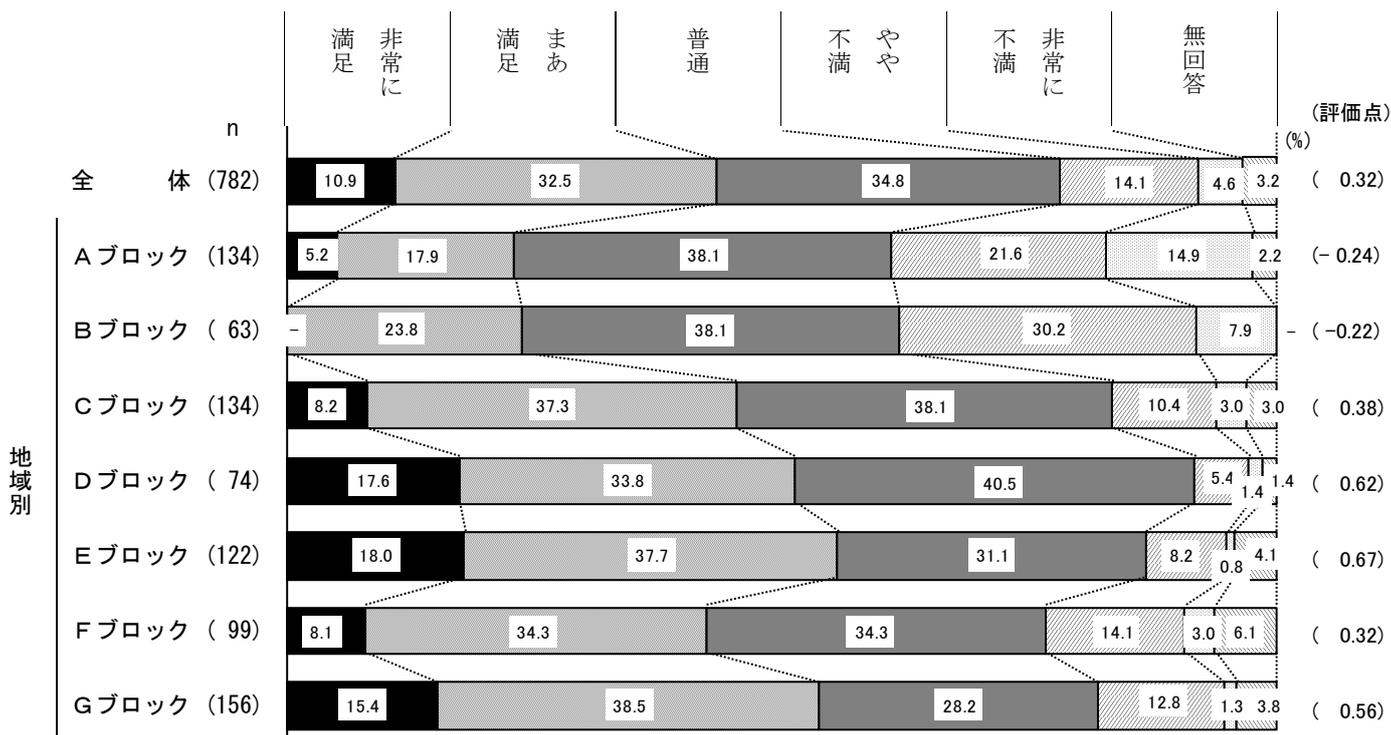
【公園や子どもの遊び場】Cブロック (0.45)、Gブロック (0.31) で評価点が高くなっている。一方、Aブロック (0.07)、Bブロック (0.11)などは評価点が低く、ブロックでの差がみられる。(図表2-7)

＜図表2-7＞公園や子どもの遊び場／地域別



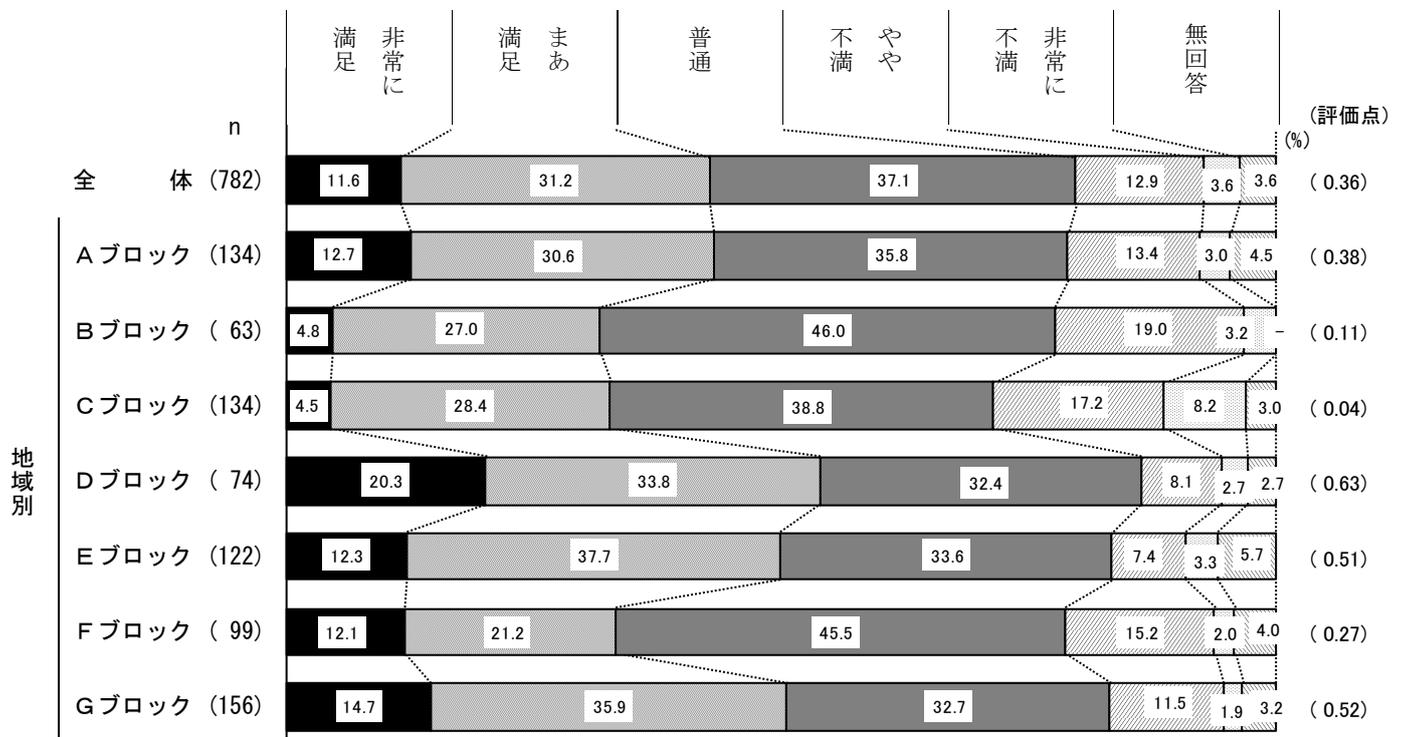
【食料品、日用品の買い物の便】Eブロック (0.67) で最も評価点が高く、次いでDブロック (0.62)、Gブロック (0.56) の順となっている。一方、Aブロック (-0.24)、Bブロック (-0.22) はマイナスの評価点となっている。(図表2-8)

＜図表2-8＞食料品、日用品の買い物の便／地域別



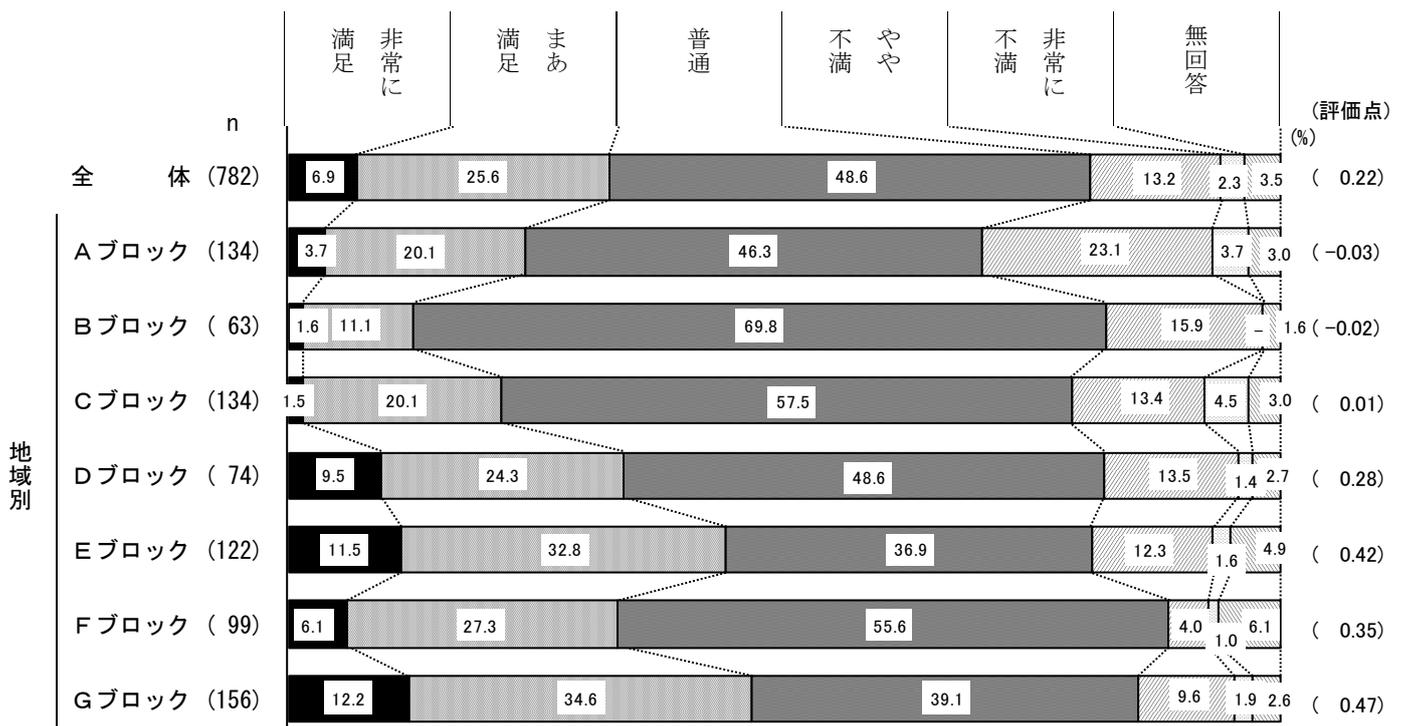
【通勤・通学や外出のときの交通の便】Dブロック (0.63) で最も評価点が高く、次いでGブロック (0.52)、Eブロック (0.51) となっている。一方、Cブロック (0.04)、Bブロック (0.11) は評価点が低く、ブロックでの差が大きい。(図表2-9)

＜図表2-9＞通勤・通学や外出のときの交通の便／地域別



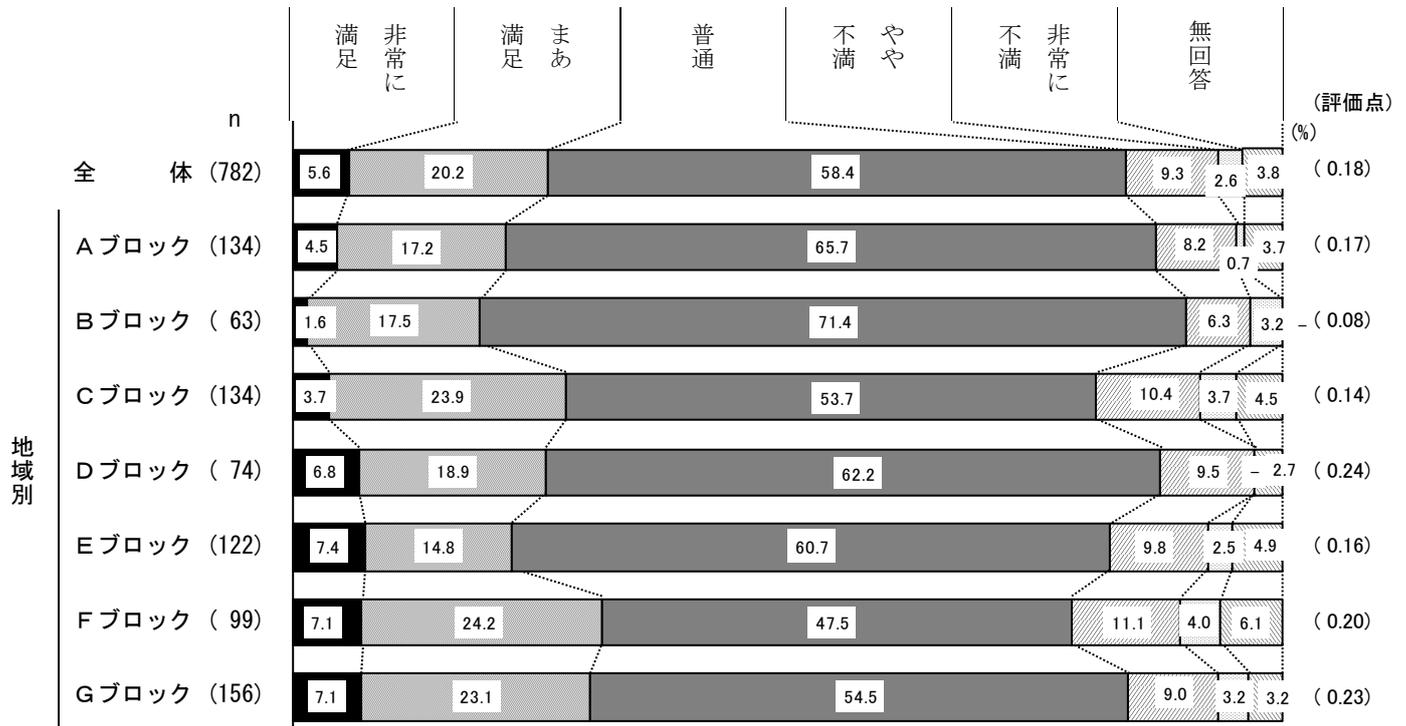
【病院や診療所などの便利さ】Gブロック (0.47) で最も評価点が高く、次いで、Eブロック (0.42)、Fブロック (0.35) となっている。一方、Aブロック (-0.03)、Bブロック (-0.02) では、マイナスの評価点となっている。(図表2-10)

＜図表2-10＞病院や診療所などの便利さ／地域別



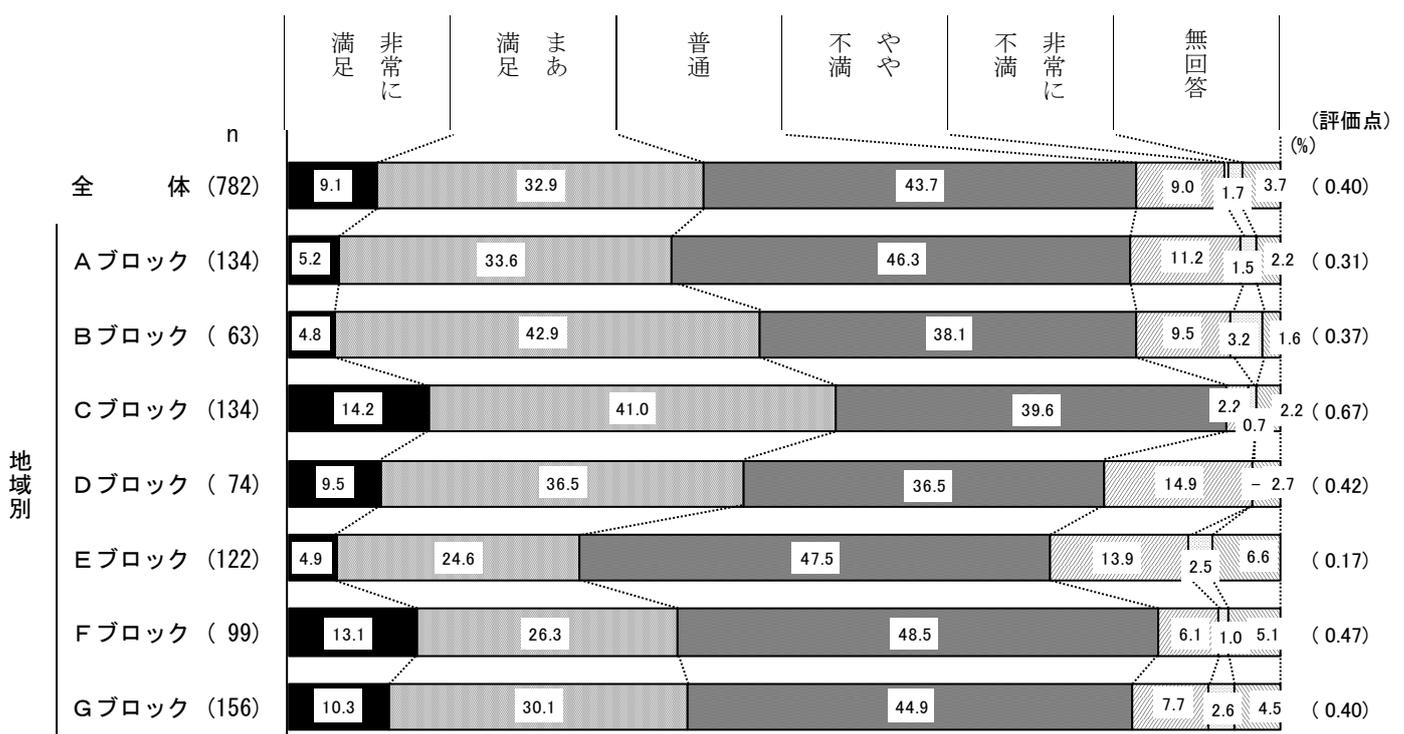
【近所づきあい、人情味の豊かさ】Dブロック (0.24) で最も評価点が高く、次いでGブロック (0.23)、Fブロック (0.20) となっている。(図表2-11)

＜図表2-11＞近所づきあい、人情味の豊かさ／地域別



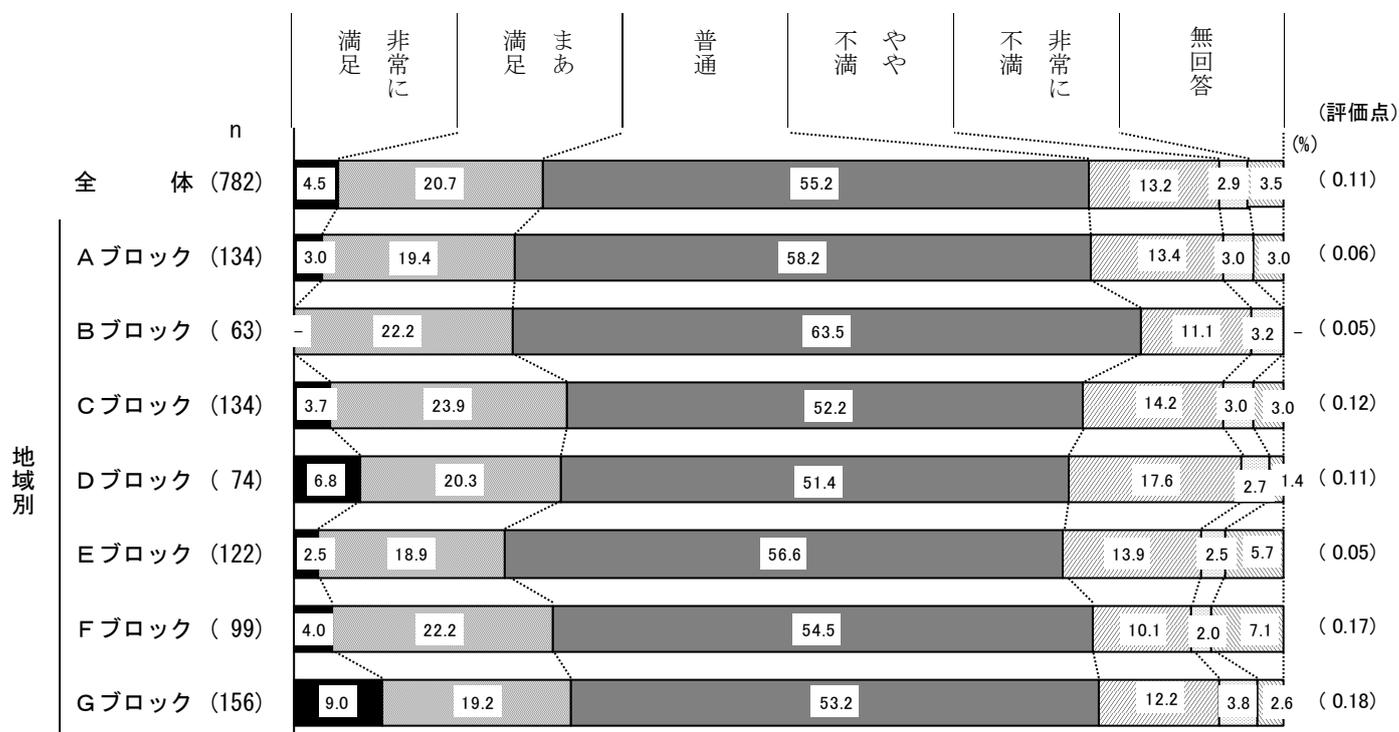
【緑や空気などの自然環境】Cブロック (0.67) で最も評価点が高く、次いでFブロック (0.47)、Dブロック (0.42) の順となっている。一方、Eブロック (0.17) で他のブロックに比べて低い評価点となっている。(図表2-12)

＜図表2-12＞緑や空気などの自然環境／地域別



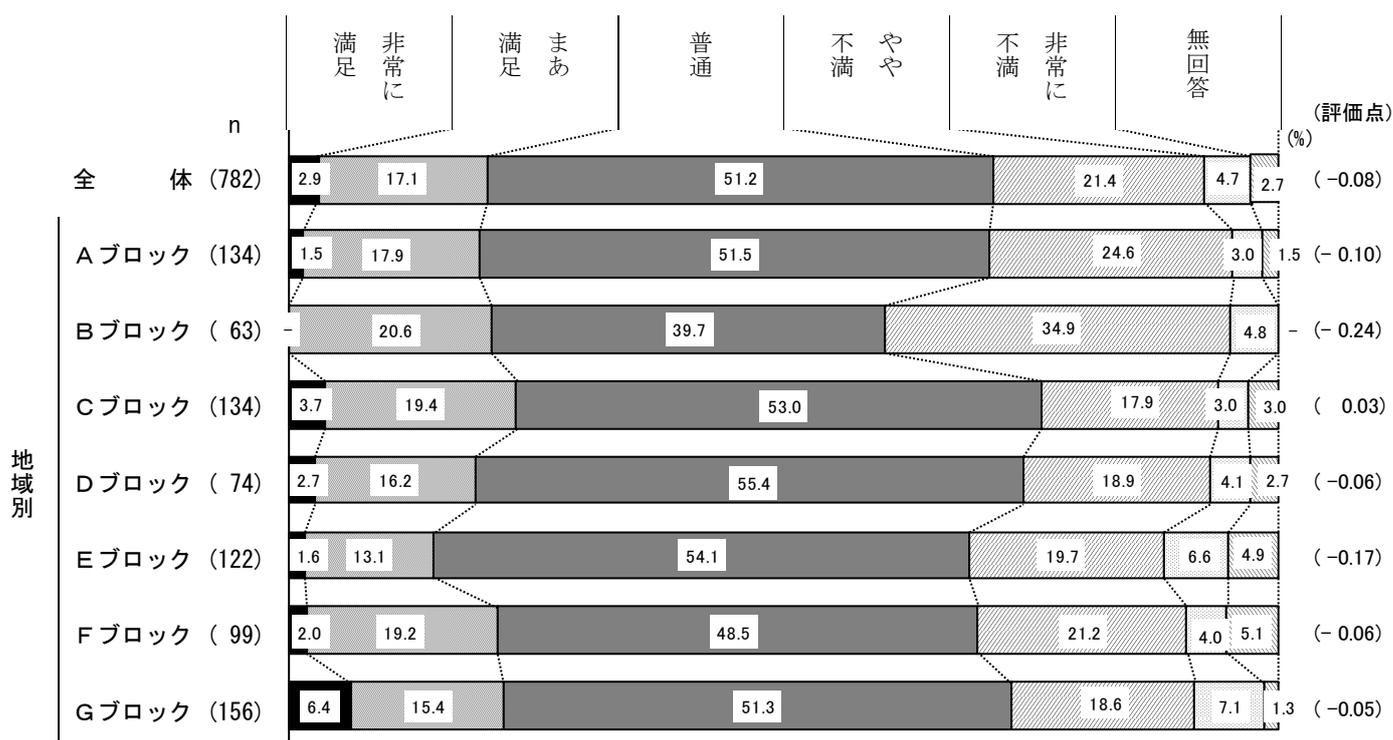
【スポーツや文化活動をする施設】Gブロック (0.18) で最も評価点が高く、次いでFブロック (0.17)、Cブロック (0.12) となっている。(図表 2-13)

＜図表 2-13＞生活環境評価／地域別



【老後の生活を送る場所として】Cブロック (0.03) を除く全てのブロックでマイナスの評価点となっており、Bブロック (-0.24) で最も低くなっている。(図表 2-14)

＜図表 2-14＞老後の生活を送る場所として／地域別

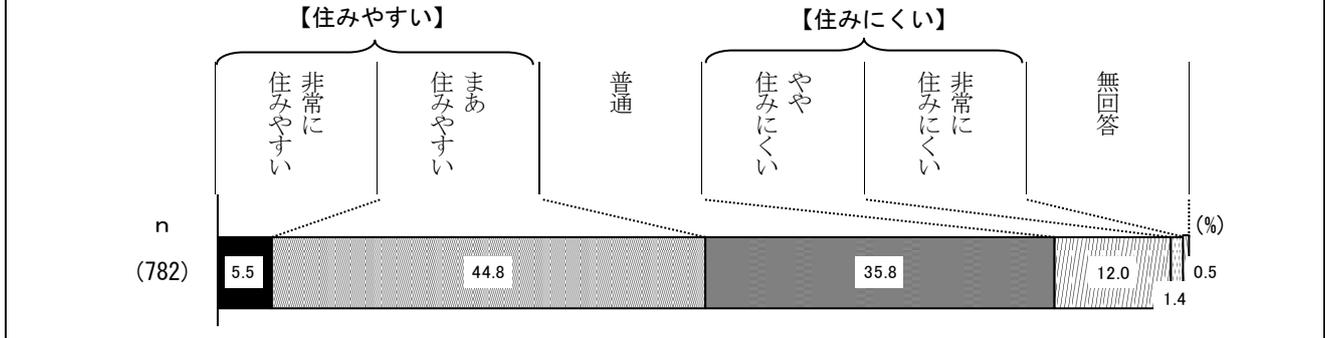


(2) 総合評価

◇「非常に住みやすい」と「まあ住みやすい」を合わせた【住みやすい】が約5割

問5 一口に言って、福生市は住みよい所だと思いますか。それとも住みにくい所だと思いますか。
次の中から1つだけ選んでください。

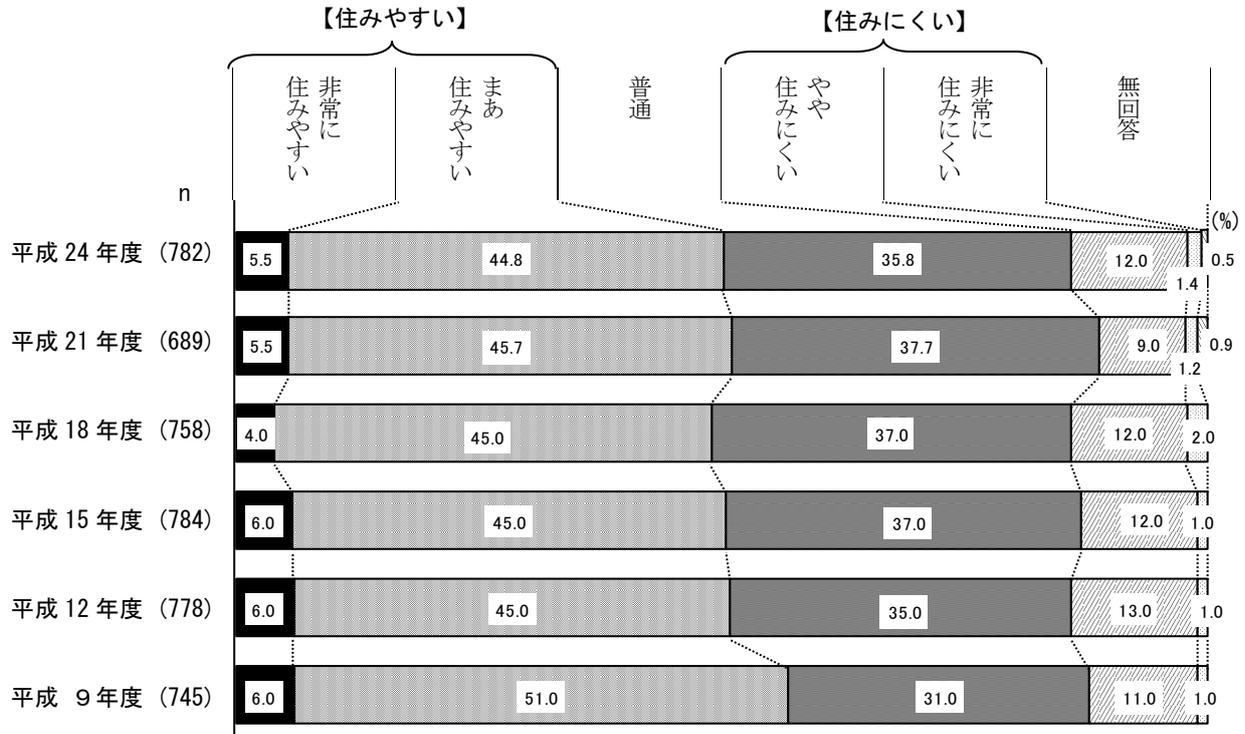
<図表2-15>総合評価



生活環境の総合評価については、「非常に住みやすい」(5.5%)と「まあ住みやすい」(44.8%)を合わせた【住みやすい】(50.3%)が約5割となっている。一方、「やや住みにくい」(12.0%)、「非常に住みにくい」(1.4%)を合わせた【住みにくい】(13.4%)は1割台半ば近くに留まる。また、「普通」(35.8%)は3割台半ばとなっている。(図表2-15)

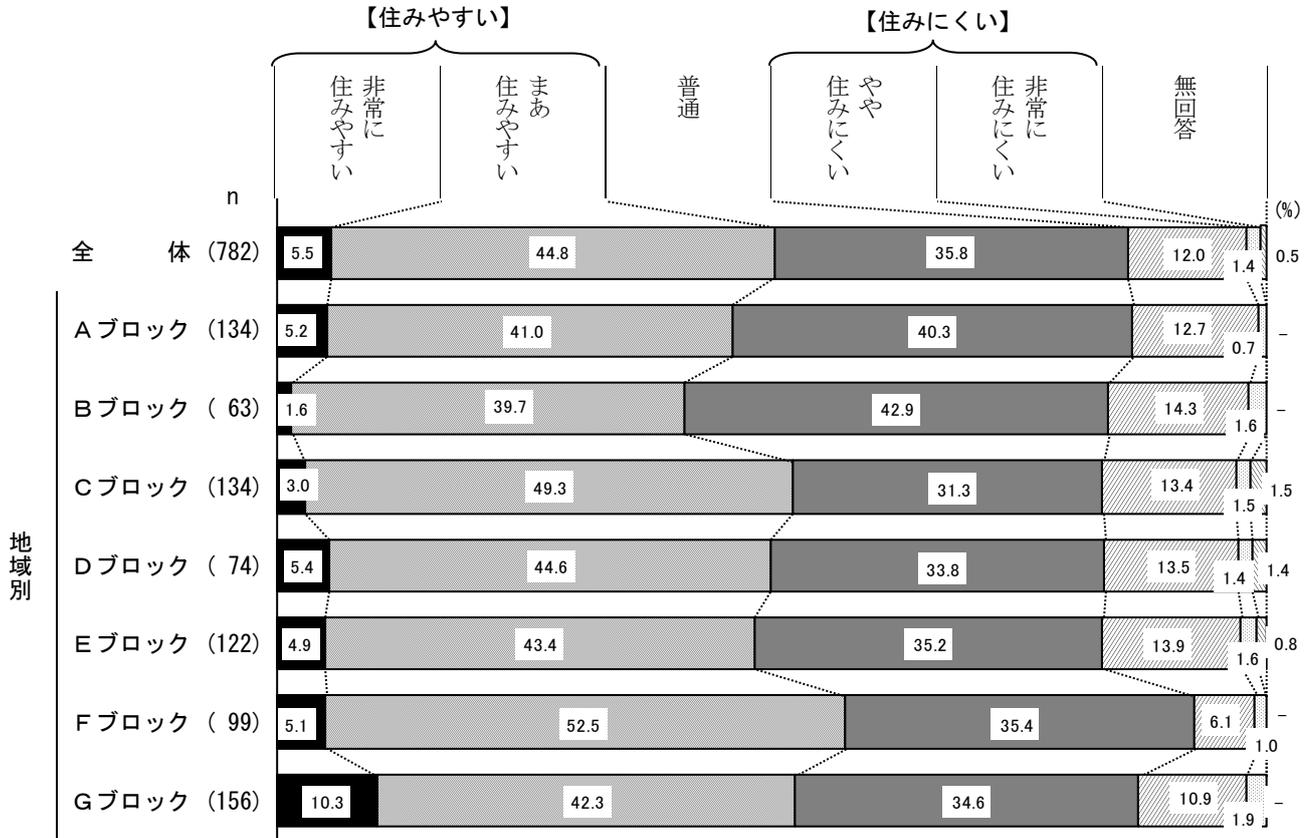
平成9年度からの調査結果の推移をみると、【住みやすい】は平成12、18及び24年度調査で若干の減少がみられるものの、長期に渡り5割前後の推移を継続している。(図表2-16)

<図表2-16>総合評価/過年度推移



地域別でみると、【住みやすい】は、Fブロック（57.6%）で5割台半ばを超えて最も高く、次いでGブロック（52.6%）、Cブロック（52.3%）となっている。一方、【住みにくい】は、Bブロック（15.9%）で最も高く、その他のブロックもFブロックを除き10～15%前後となっている。（図表2-17）

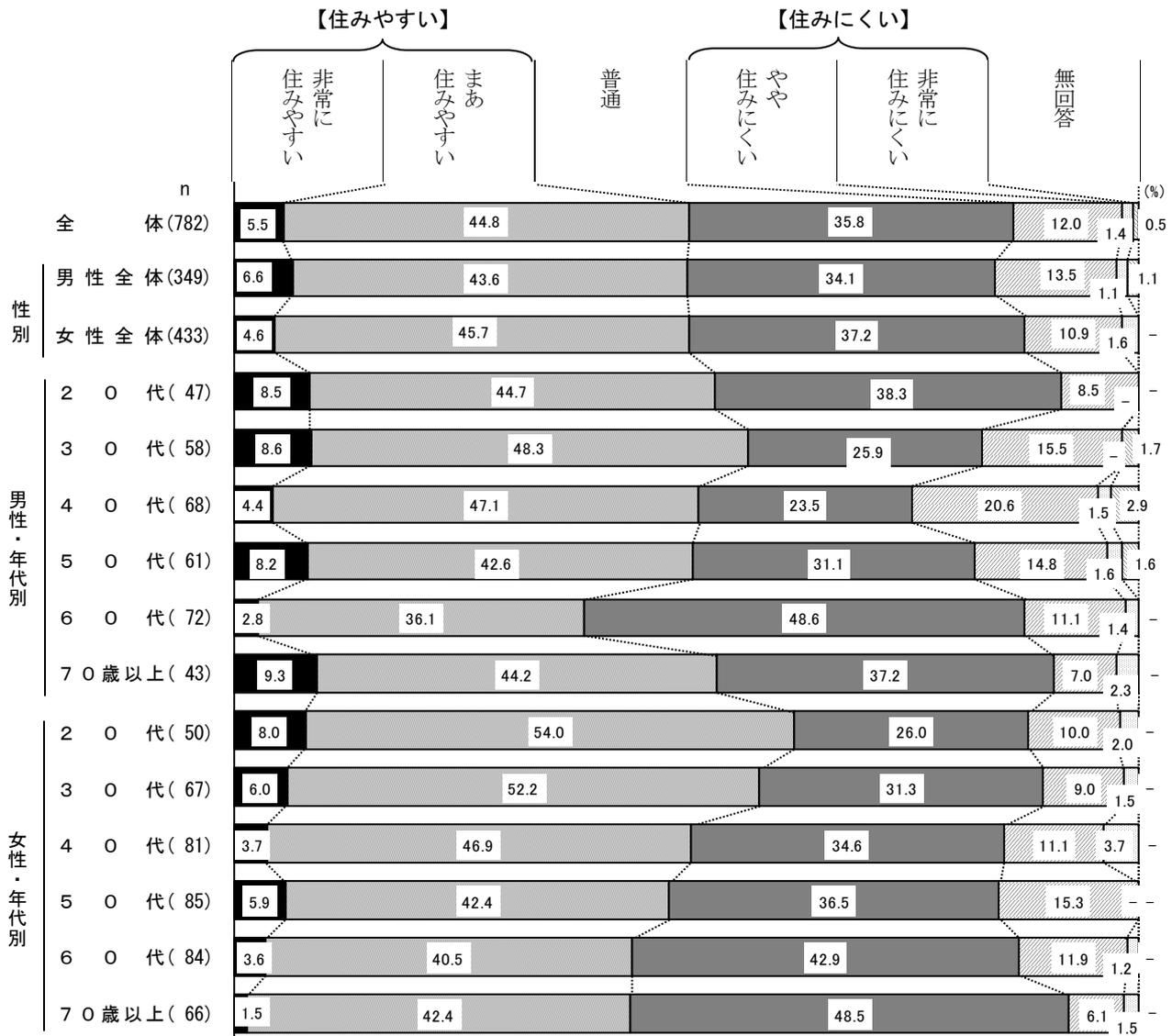
<図表2-17>総合評価／地域別



性別でみると、男女ともに【住みやすい】が約5割となっており、大きな差異はみられない。

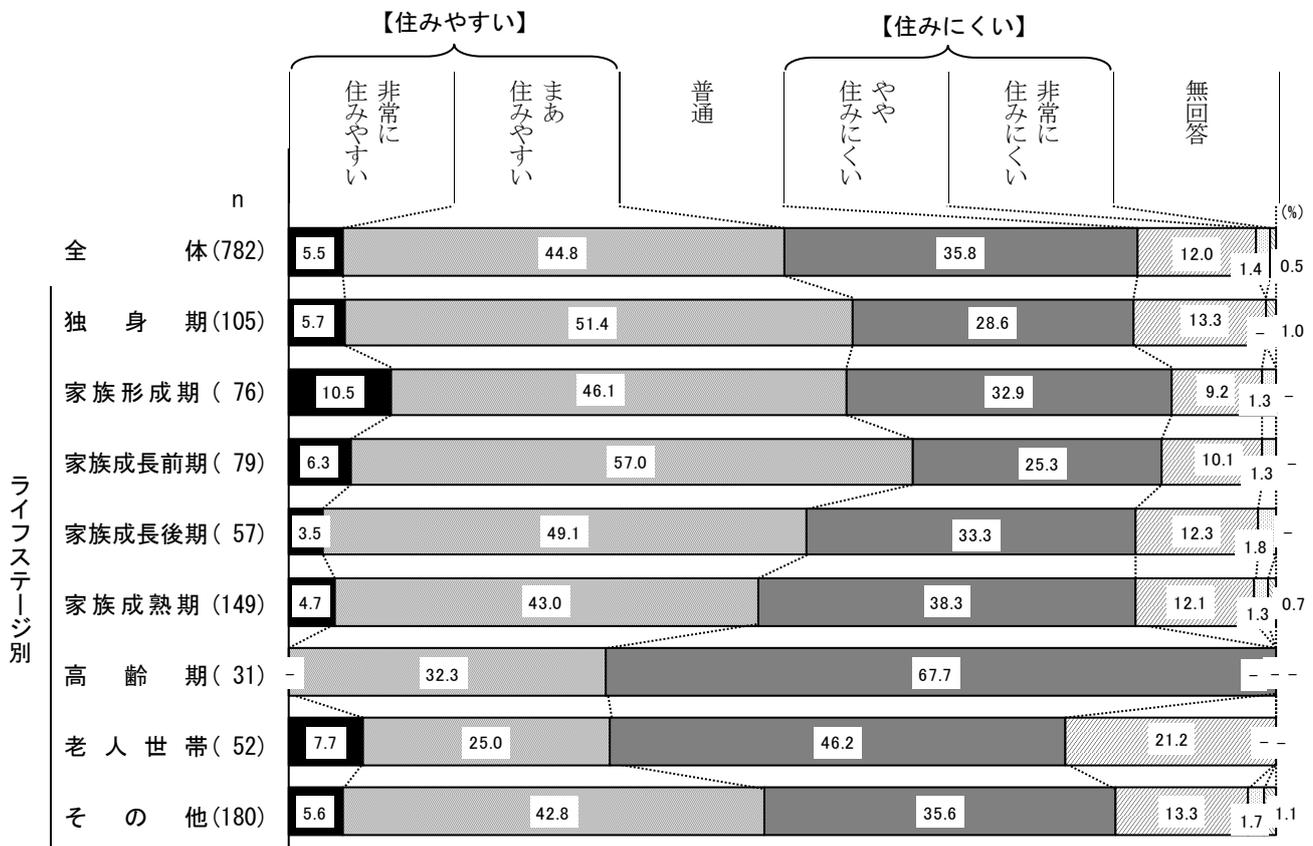
性・年代別でみると、【住みやすい】は、女性の20代（62.0%）で最も高く、女性では年代が若い層ほどその割合が高くなっている。また、男性では60代（38.9%）で著しく低くなっているが、その他の全ての年代で5割以上となっている。（図表2-18）

＜図表2-18＞総合評価／性別、性・年代別



ライフステージ別でみると、【住みやすい】は家族成長前期（63.3%）で最も高く、6割台半ば近くとなっており、次いで独身期（57.1%）、家族形成期（56.6%）となっている。一方、【住みにくい】は老人世帯（21.2%）で2割強と最も高い。（図表2-19）

＜図表2-19＞総合評価／ライフステージ別



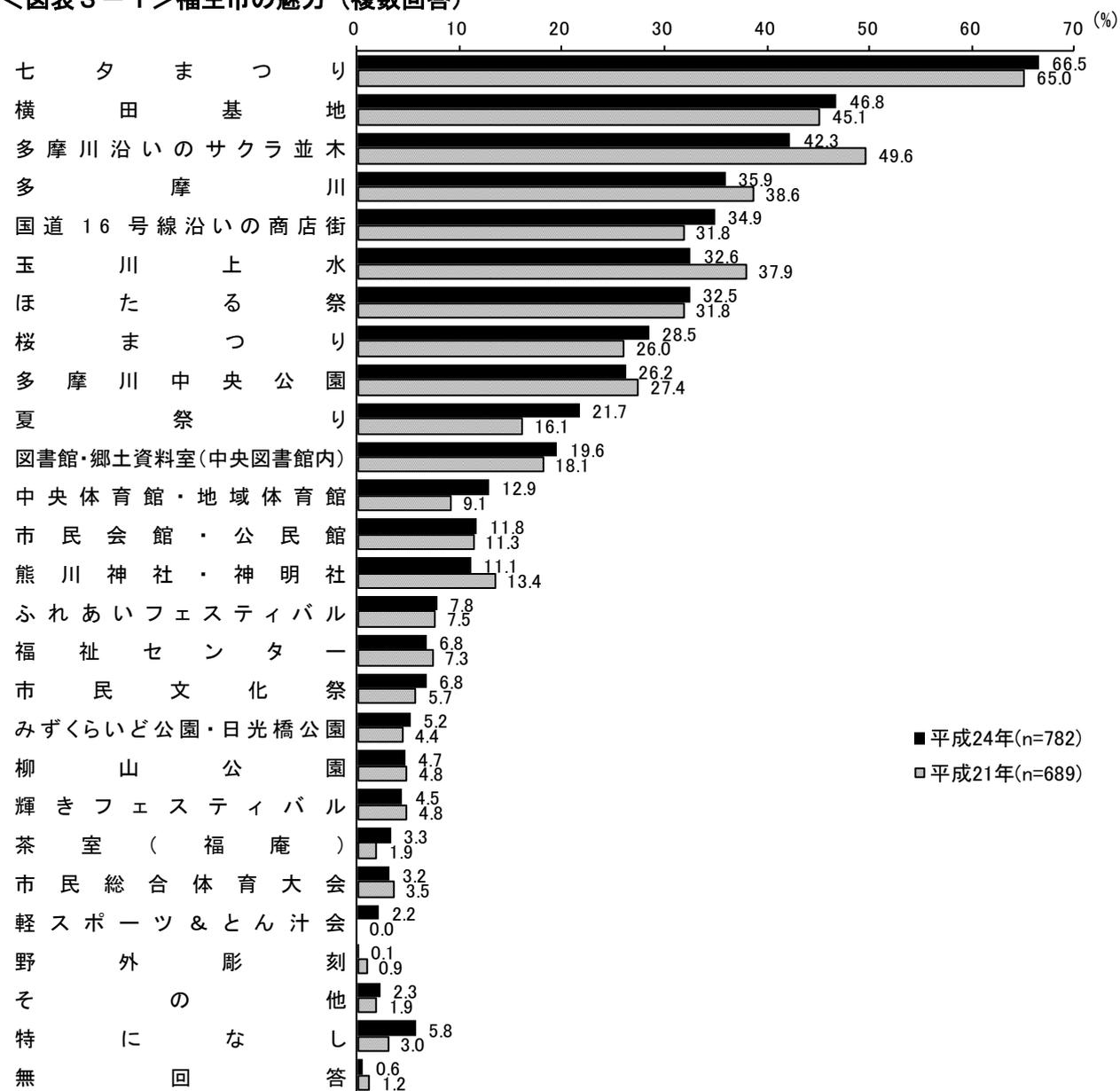
3. 福生市の魅力と将来像

(1) 福生市の魅力

◇「七夕まつり」が6割台半ばを超える

問6 福生市内の施設や行事の中で、あなたが福生市らしい魅力を感じるものはどれですか。次の中から**あてはまるものを全て**選んでください。

＜図表3-1＞福生市の魅力（複数回答）

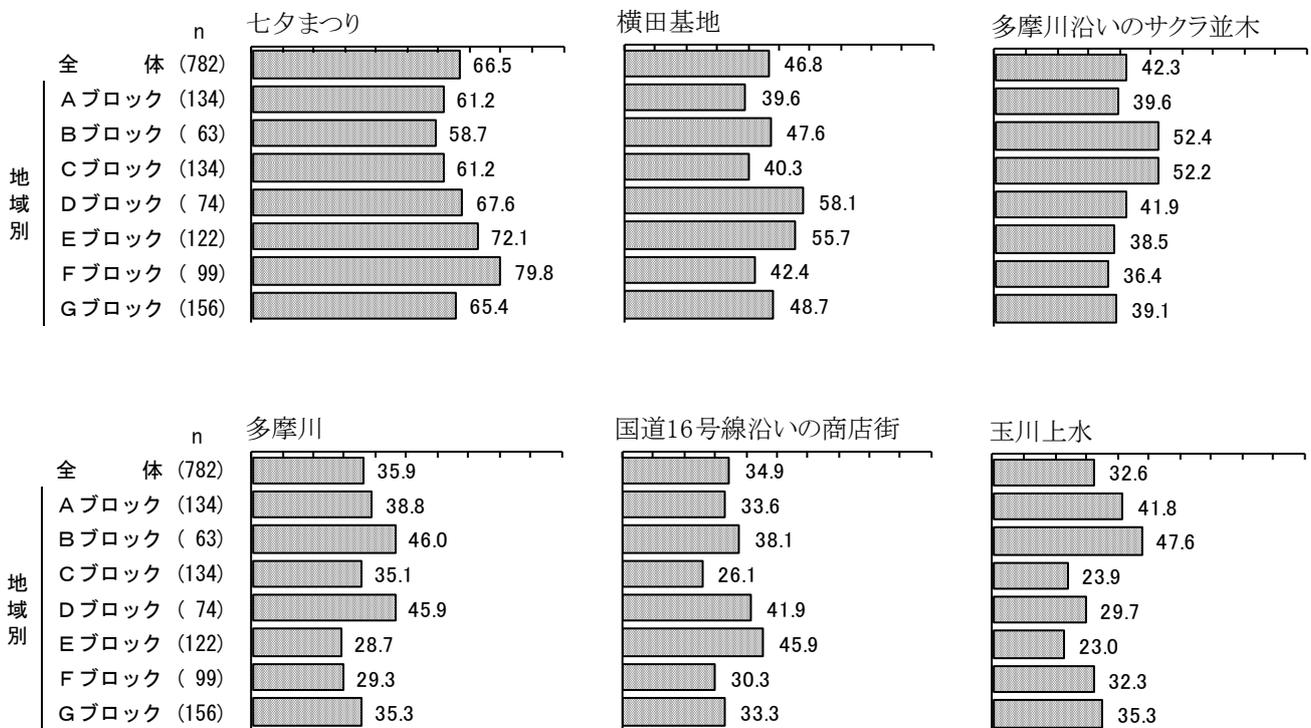


福生市の施設や行事で、福生らしいものを尋ねたところ、「七夕まつり」(66.5%)の割合が最も高く、6割台半ばを超える。次いで「横田基地」(46.8%)、「多摩川沿いのサクラ並木」(42.3%)、「多摩川」(35.9%)、「国道16号線沿いの商店街」(34.9%)、「玉川上水」(32.6%)となっている。(図表3-1)

平成21年度の調査結果と比較すると、上位では「横田基地」が3位から2位へ、「国道16号線沿いの商店街」が6位から5位へ順位を上げている。また、「多摩川沿いのサクラ並木」が7.3ポイント、「玉川上水」が5.3ポイントの減少となっている。(図表3-1)

上位6項目について地域別でみると、「七夕まつり」はFブロック（79.8%）で8割弱と最も高く、さらに、全ての地域でも5割以上を占めている。また、「横田基地」はDブロック（58.1%）、Eブロック（55.7%）、「多摩川沿いのサクラ並木」はBブロック（52.4%）、Cブロック（52.2）で他の地域に比べ高くなっている。（図表3-2）

＜図表3-2＞福生市の魅力／地域別（上位6項目）

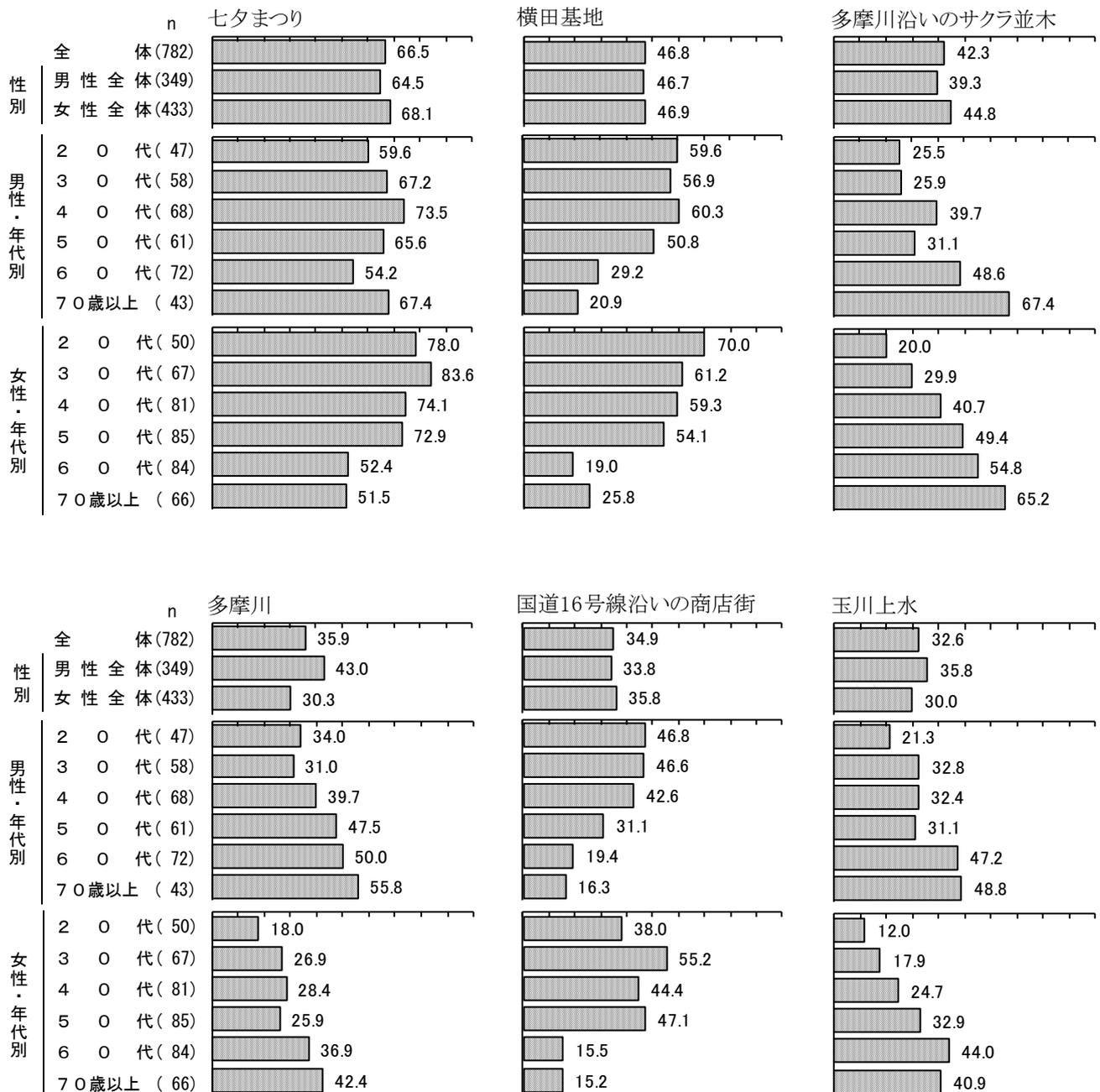


上位6項目について性別でみると、「多摩川沿いのサクラ並木」は女性全体（44.8%）が男性全体（39.3%）より5.5ポイント上回っており、「多摩川」では12.7ポイント、「玉川上水」では5.8ポイントを男性全体が女性全体を上回っている。

性・年代別でみると、「七夕まつり」は、女性の30代（83.6%）で最も高く、8割台半ば近くとなっている。「横田基地」、「国道16号沿いの商店街」は年代が若い層ほど割合が高くなる傾向がみられ、「多摩川沿いのサクラ並木」、「多摩川」、「玉川上水」は年代が高い層ほど割合が高くなる傾向がみられる。

（図表3-3）

＜図表3-3＞福生市の魅力／性別、性・年代別（上位6項目）

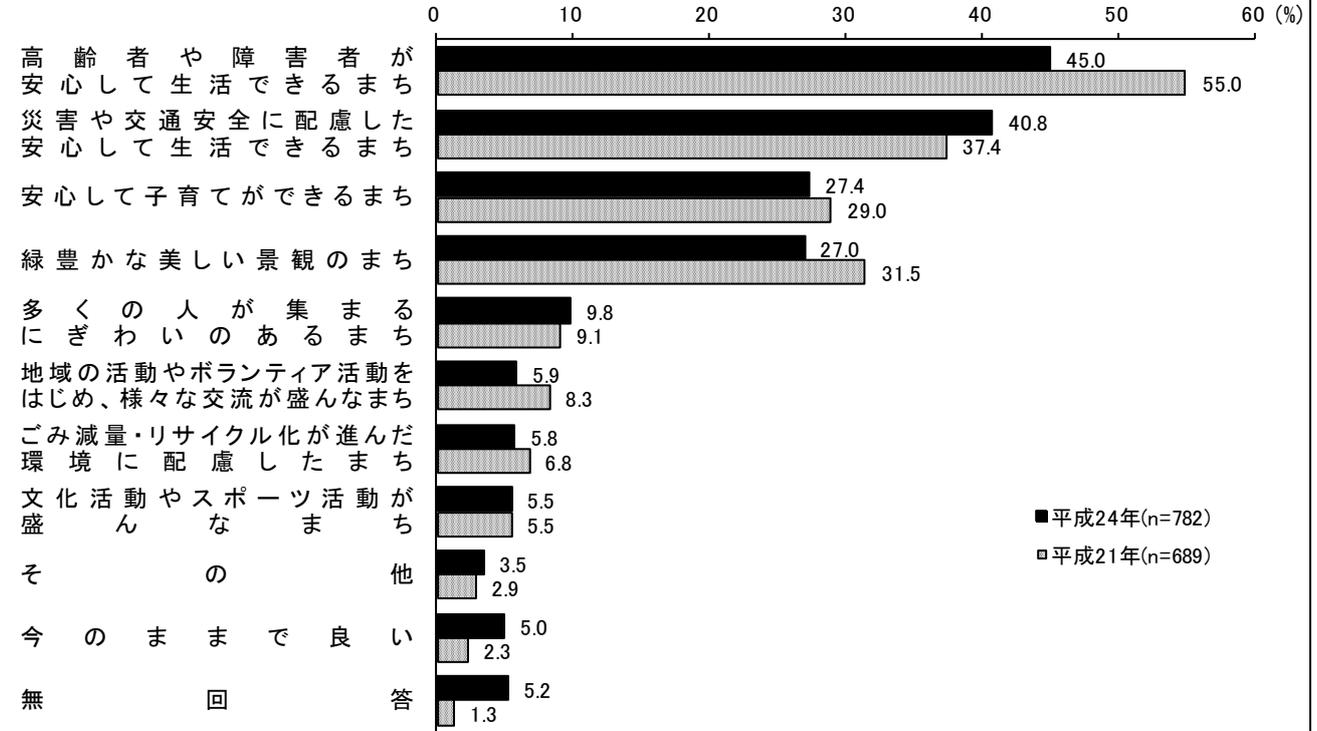


(2) 福生市の将来像

◇「高齢者や障害者が安心して生活できるまち」が4割台半ば

問7 将来の福生市はどのようなまちであってほしいと思いますか。あなたが希望するまちを次の中から**2つまで**選んでください。

＜図表3-4＞福生市の将来像（複数回答）

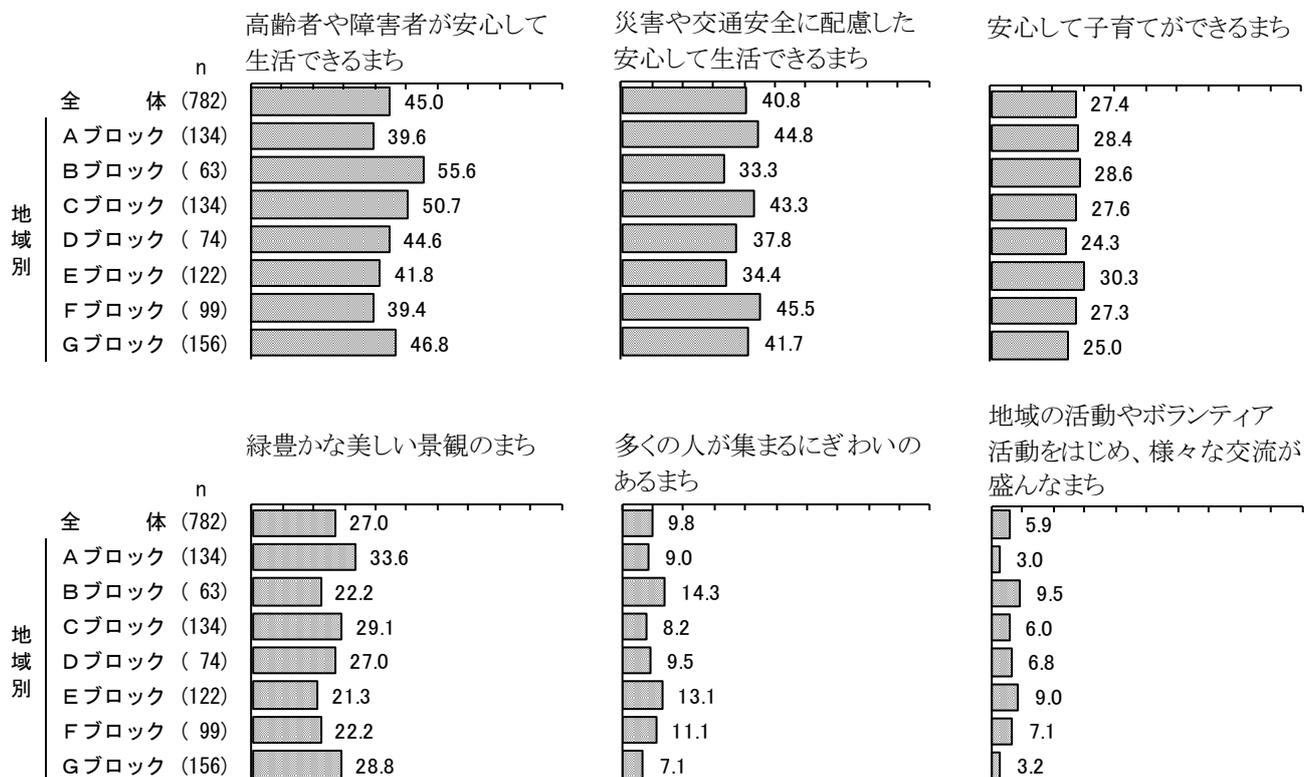


福生市の将来像について尋ねたところ、「高齢者や障害者が安心して生活できるまち」（45.0%）が最も高く、4割台半ばとなっている。次いで「災害や交通安全に配慮した安心して生活できるまち」（40.8%）、「安心して子育てができるまち」（27.4%）、「緑豊かな美しい景観のまち」（27.0%）となっている。（図表3-4）

平成21年度の調査結果と比較すると、第1位はともに「高齢者や障害者が安心して生活できるまち」で変動はないが、平成21年度と比べて10ポイントの減少となっている。一方、第2位の「災害や交通安全に配慮した安心して生活できるまち」は3.4ポイントの増加となっている。（図表3-4）

上位6項目について地域別でみると、「高齢者や障害者が安心して生活できるまち」は、Bブロック（55.6%）、Cブロック（50.7%）で5割以上となっている。「災害や交通安全に配慮した安心して生活できるまち」はFブロック（45.5%）で、「安心して子育てができるまち」はEブロック（30.3%）、「緑豊かな美しい景観のまち」はAブロック（33.6%）で最も高くなっている。（図表3-5）

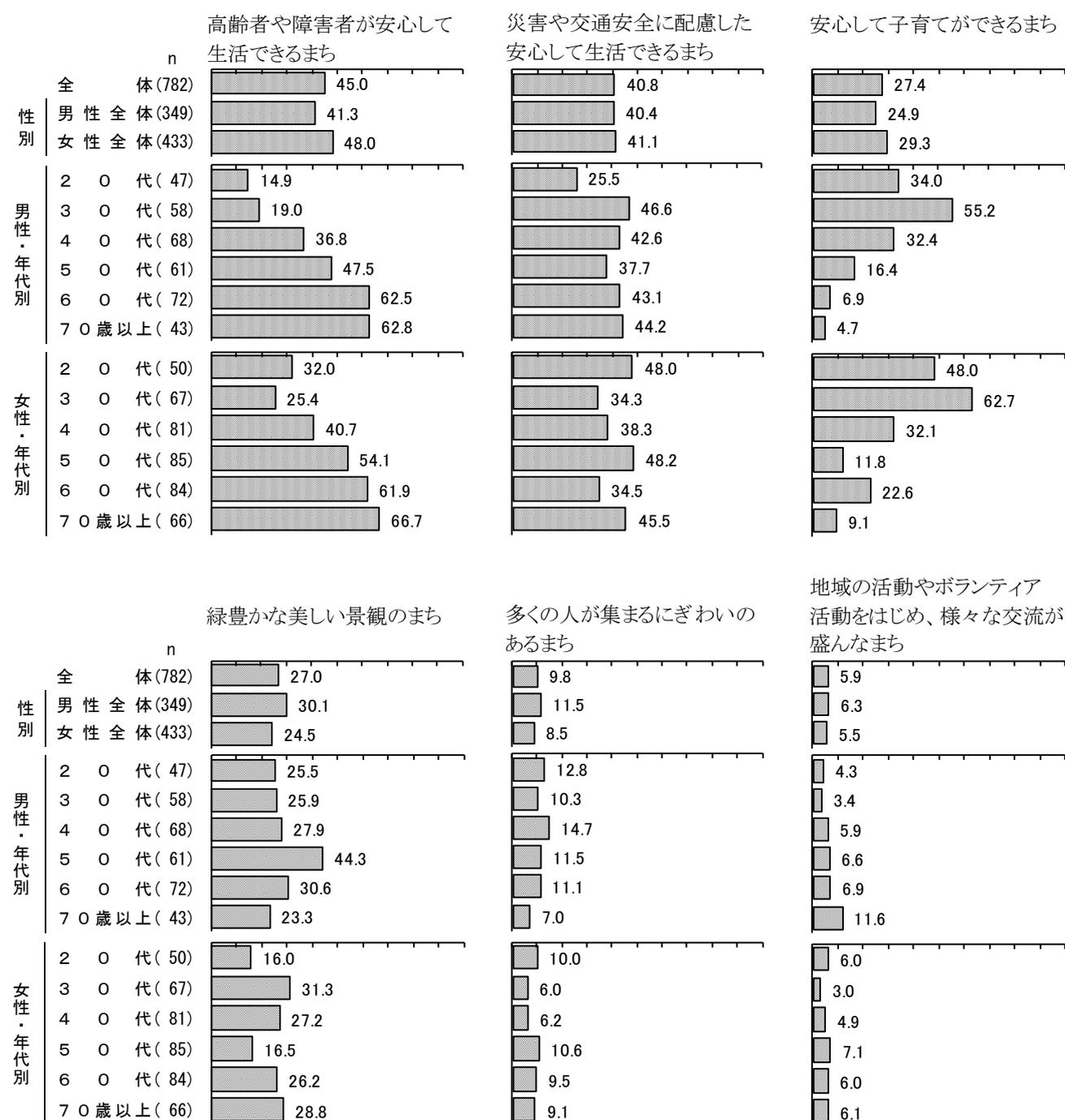
＜図表3-5＞福生市の将来像／地域別（上位6項目）



上位6項目について性別でみると、「高齢者や障害者が安心して生活できるまち」は女性全体（48.0%）が男性全体（41.3%）より6.7ポイント、また、「安心して子育てができるまち」では女性全体（29.3%）が男性全体（24.9%）より4.4ポイントそれぞれ上回っている。一方、「緑豊かな美しい景観のまち」では男性全体（30.1%）が女性全体（24.5%）より5.6ポイント上回っている。

性・年代別でみると、「高齢者や障害者が安心して生活できるまち」は男女ともに年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられ、男女ともに60代以上の年代で6割以上となっている。「安心して子育てができるまち」は、女性の30代（62.7%）で最も高く、男女ともに30代で他の年代と比べて高い。（図表3-6）

＜図表3-6＞福生市の将来像／性別、性・年代別（上位6項目）

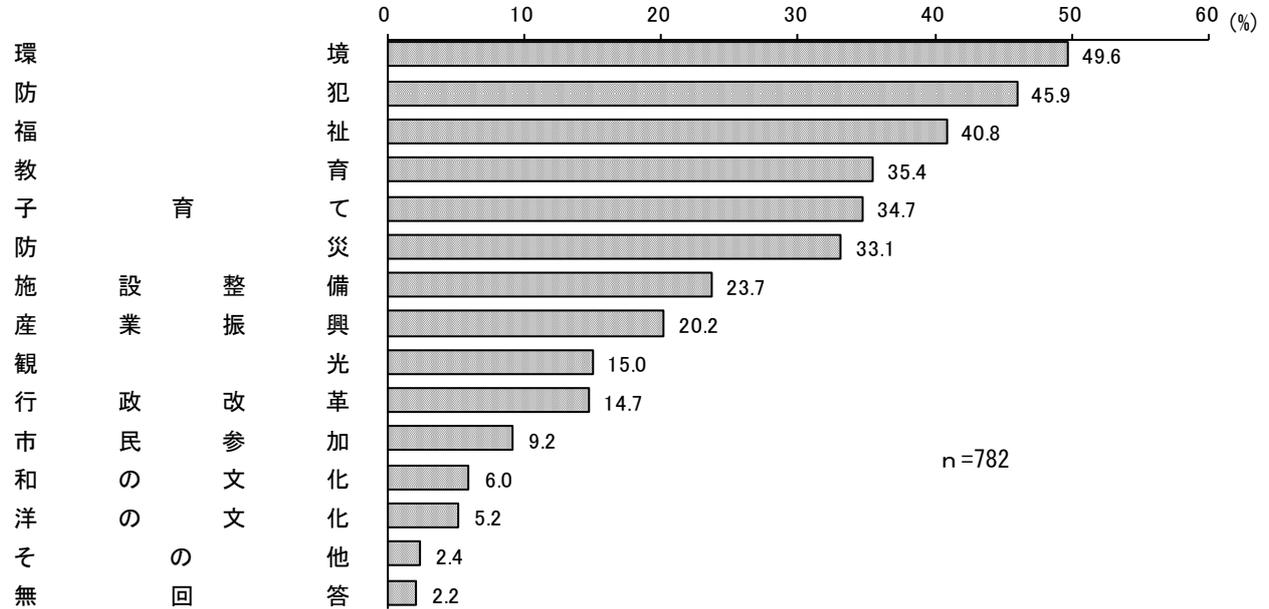


(3) まちの魅力を高めるために、重点をおくべき分野

◇「環境」が5割弱で最も高く、「防犯」が4割台半ば、「福祉」が約4割で続く

問8 まちの魅力を高めるためには、どの分野に重点をおくべきでしょうか。次の中から**あてはまるものを全て**選んでください。

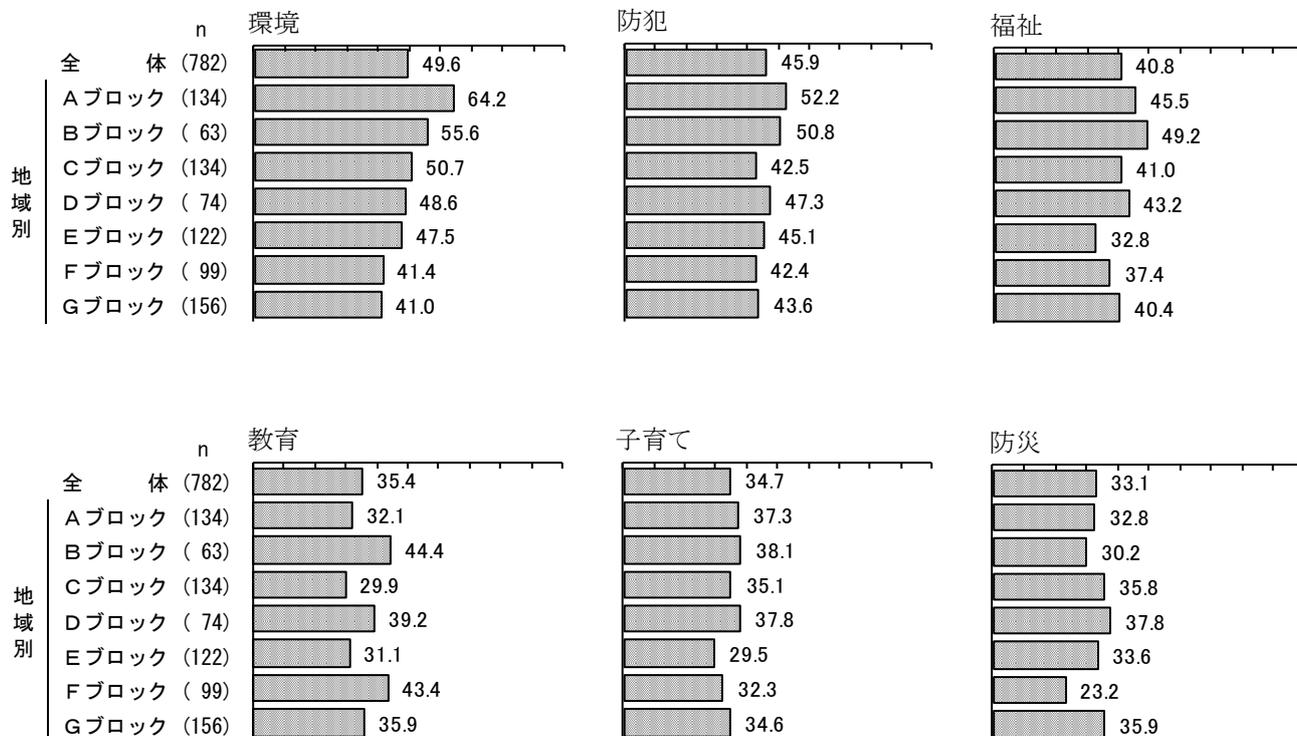
<図表3-7>まちの魅力を高めるために、重点をおくべき分野（複数回答）



まちの魅力を高めるために、重点をおくべき分野について尋ねたところ、「環境」（49.6%）が最も高く5割弱となっている。次いで「防犯」（45.9%）、「福祉」（40.8%）の順で、いずれも4割以上を占めている。（図表3-7）

上位6項目について地域別で見ると、「環境」は、Aブロック（64.2%）で最も高く6割台半ば近くとなっており、次いで、Bブロック（55.6%）、Cブロック（50.7%）が5割以上を占めている。「防犯」は、Aブロック（52.2%）、Bブロック（50.8%）の順で高く、5割以上を占めている。「福祉」は、Bブロック（49.2%）で最も高く、5割弱となっている。（図表3-8）

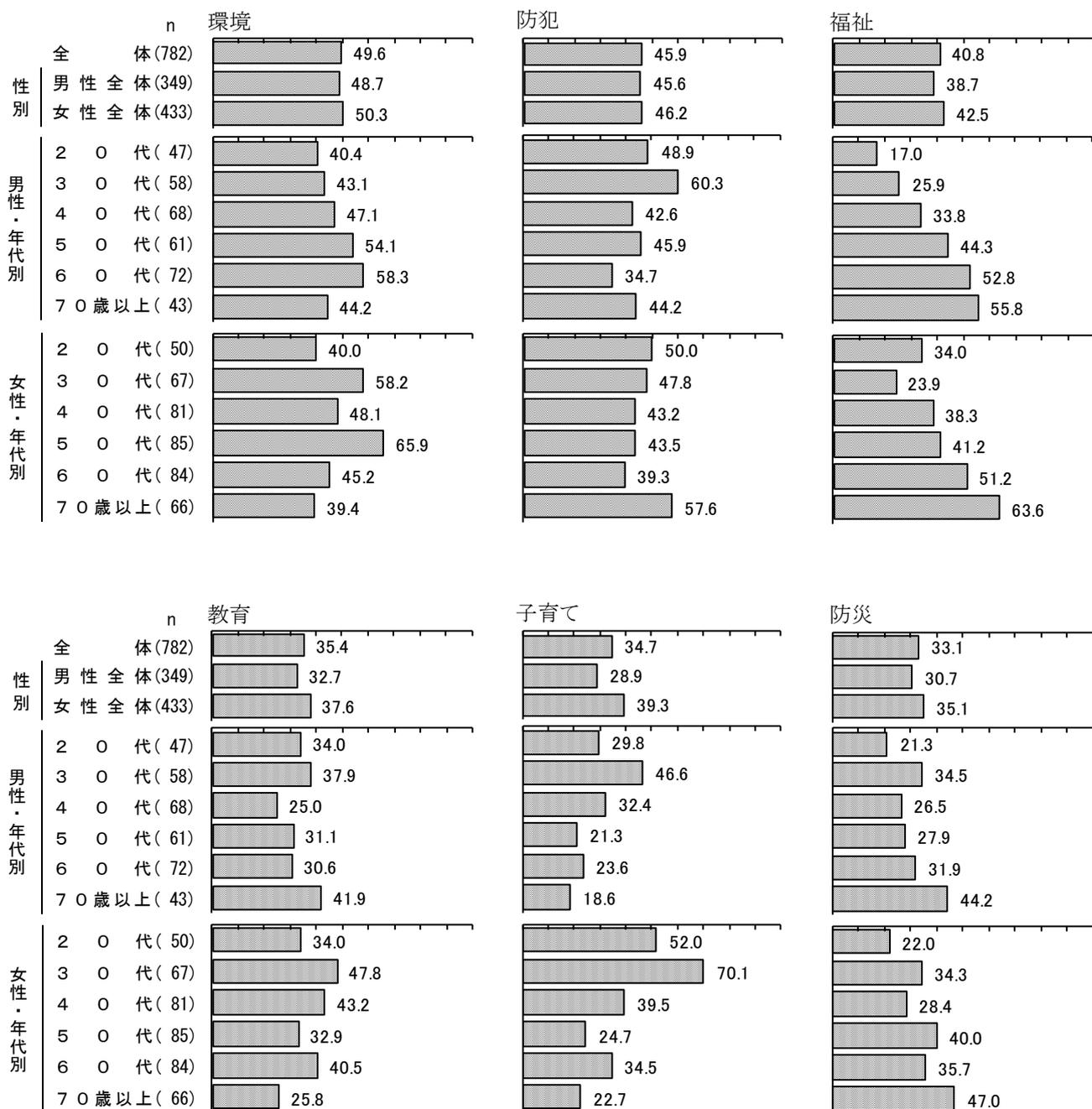
＜図表3-8＞まちの魅力を高めるために、重点をおくべき分野／地域別（上位6項目）



上位6項目について性別でみると、「子育て」は、女性全体（39.3%）が男性全体（28.9%）より10.4ポイント上回っている。

性・年代別でみると、「環境」は女性の50代（65.9%）で最も高く、次いで男性の60代（58.3%）、女性の30代（58.2%）となっている。「福祉」は男女ともに年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられ、「子育て」は男女ともに30代で他の年代と比べて高くなっている。（図表3-9）

＜図表3-9＞まちの魅力を高めるために、重点をおくべき分野／性別、性・年代別（上位6項目）



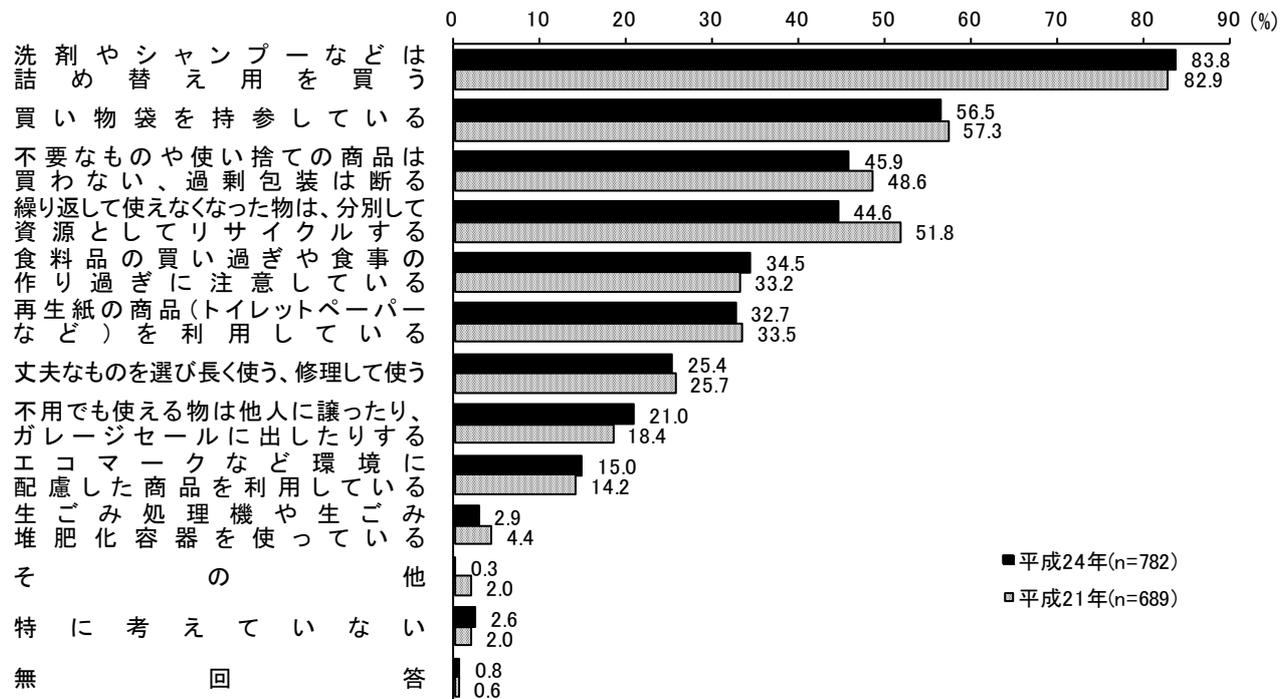
4. 環境問題

(1) ごみ減量やリサイクルのために心がけていること

◇「洗剤やシャンプーなどは詰め替え用を買う」が8割台半ば近く

問9 あなたがごみ減量やリサイクルを進める上で、日常心がけていることは何ですか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

<図表4-1>ごみ減量やリサイクルのために心がけていること（複数回答）



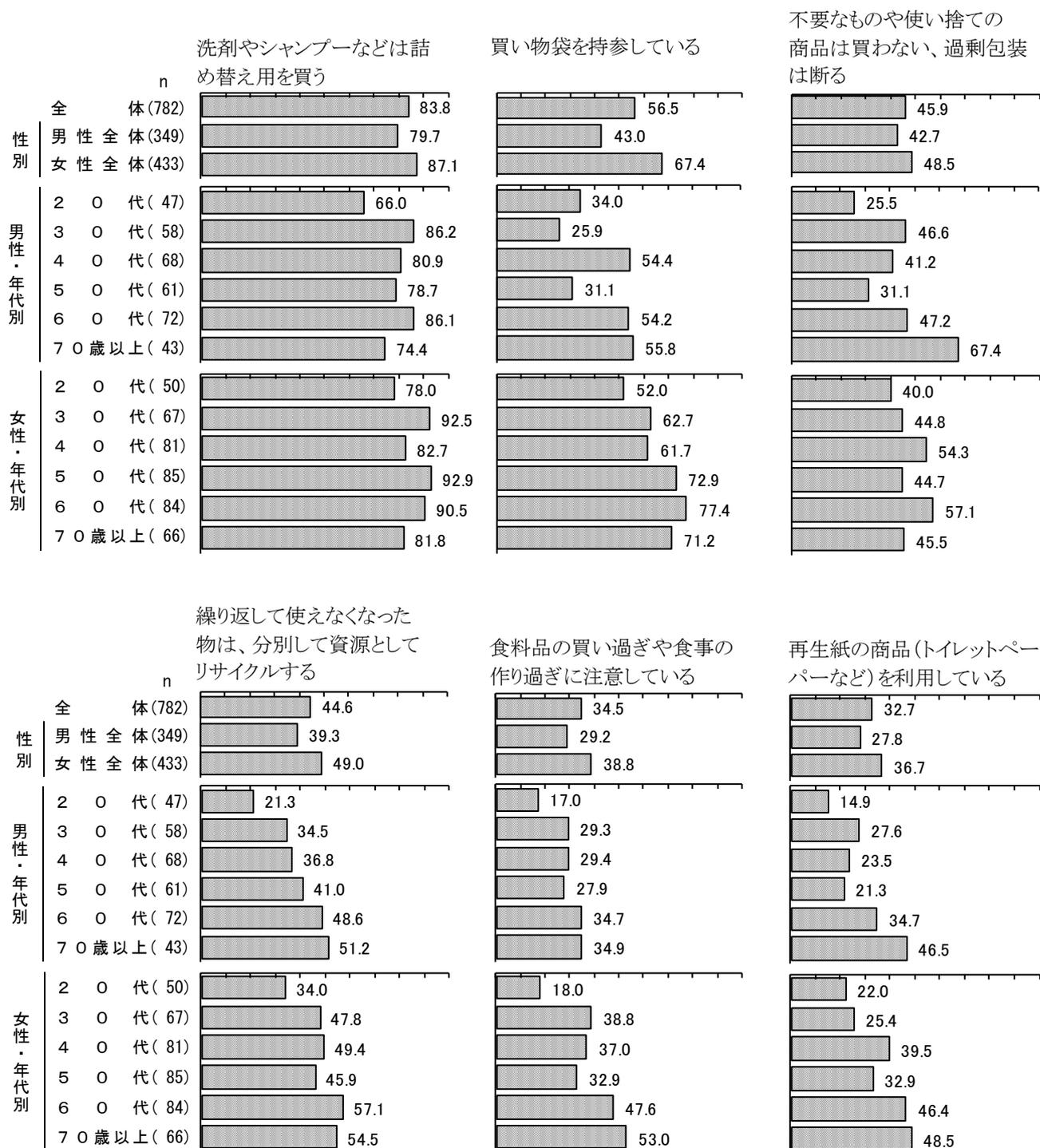
ごみ減量やリサイクルのために心がけていることを尋ねたところ、「洗剤やシャンプーなどは詰め替え用を買う」(83.8%)が最も高く、8割台半ば近くとなっている。次いで「買い物袋を持参している」(56.5%)、「不要なものや使い捨ての商品は買わない、過剰包装は断る」(45.9%)、「繰り返して使えなくなった物は、分別して資源としてリサイクルする」(44.6%)となっている。(図表4-1)

平成21年度の調査結果と比較すると、「繰り返して使えなくなった物は、分別して資源としてリサイクルする」は7.2ポイント減少しており、前回の3位から4位となっている。その他の項目では、大きな変化はみられない。(図表4-1)

上位6項目について性別でみると、全ての項目で女性全体が男性全体を上回って、特に「買い物袋を持参している」は24.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「洗剤やシャンプーなどは詰め替え用を買う」は、男性の20代を除く全ての年代で7割以上と高く、「買い物袋を持参している」は、女性では、20代を除く全ての年代で6割以上となっている。「繰り返して使えなくなった物は、分別して資源としてリサイクルする」は、男性で年代が上がるにつれて高くなっている。(図表4-2)

＜図表4-2＞ごみ減量やリサイクルのために心がけていること／性別・性年代別（上位6項目）

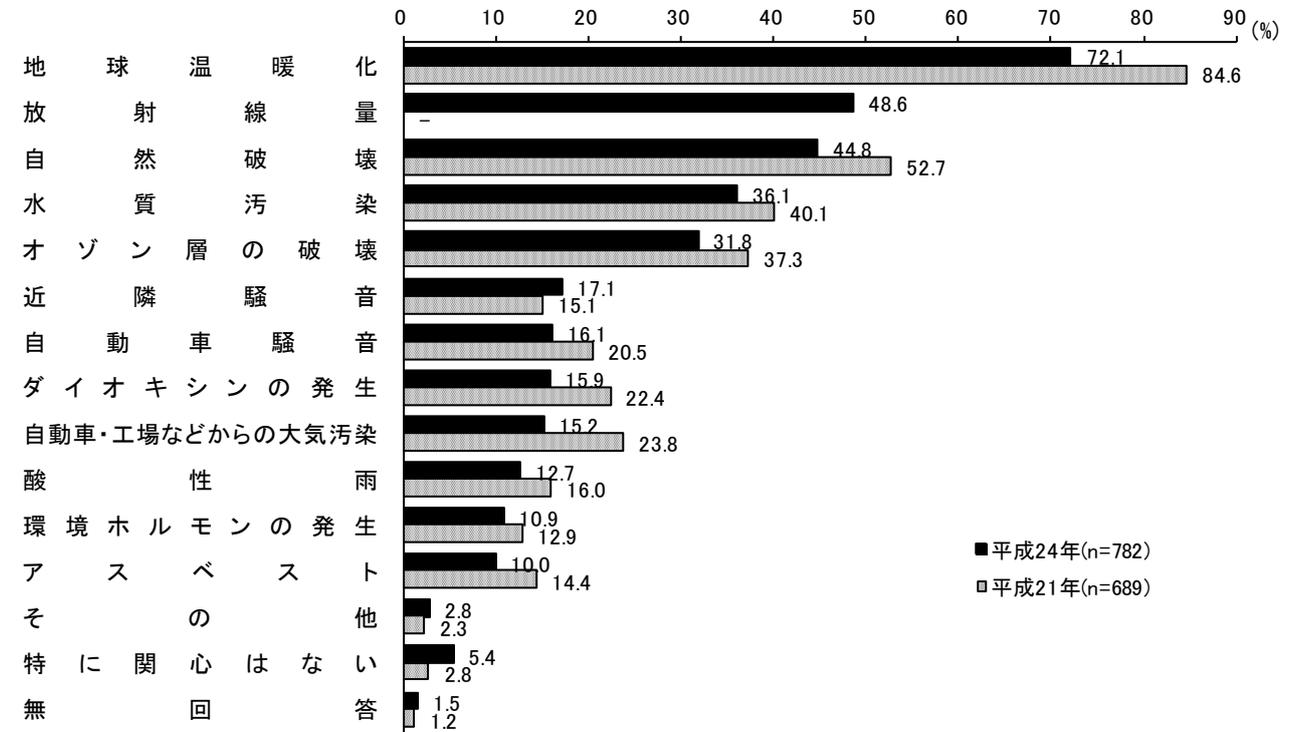


(2) 関心のある環境問題

◇「地球温暖化」が7割強

問10 あなたは環境問題について、最近どのような事柄に関心がありますか。関心のあるものを次の中から**全て**選んでください。

＜図表4-3＞関心のある環境問題（複数回答）



関心のある環境問題について尋ねたところ、「地球温暖化」（72.1%）が最も高く、7割強となっており、次いで「放射線量」（48.6%）が5割近く、「自然破壊」（44.8%）が4割台半ば近くの順となっている。（図表4-3）

平成21年度の調査結果と比較すると、「地球温暖化」が12.5ポイント、「自然破壊」が7.9ポイントなど、ほとんどの環境問題への関心が減少している傾向にあるが、新設項目である「放射線量」が第2位となっており、関心の高さが伺える。（図表4-3）

上位6項目について性別でみると、「放射線量」は、女性全体（52.4%）が男性全体（43.8%）より8.6ポイント、「地球温暖化」は、女性全体（74.6%）が男性全体（69.1%）より5.5ポイントそれぞれ上回っている。

性・年代別でみると、「地球温暖化」は、男女ともに20代を除く全ての年代で6割以上、「放射線量」は、女性では60代を除く全ての年代で5割以上を占めて高くなっている。「自然破壊」は、男女ともに20代で関心が低くなっている。「水質汚染」は、男女ともに年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。（図表4-4）

＜図表4-4＞関心のある環境問題／性別、性・年代別（上位6項目）

